

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(行政経営分野)

分野	政策	施策	①現況と課題	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
1	行政経営	1	市民が主役のまちづくりの推進	<p>価値観や生活様式の変化・多様化に伴い、行政サービスに対する市民ニーズも複雑・多様化している中、分かりやすく市政情報を提供するとともに、市民の意見を十分に活かしながら市政を推進する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・どんな意見が出ているのか、どこに出せば良いのか分かりやすい市政情報を提供するとともに、市民の意見を十分に活かしながら市政を推進する必要があります。</p> <p>【企画課からの提案】 ・情報発信のデジタル化推進</p>	<p>・デジタル化をいかに主な取組に反映させていくのかが重要なポイントである。</p>	<p>【②について】 市民会議・審議会等の議事録やパブリックコメント結果をホームページに掲載するなど意見公表に努めるとともに、みどりのはがきの「広報ながの」への掲載、ホームページからの投書など意見提出窓口の周知に努めているところである。 今後現計画の「分かりやすい市政情報の提供」という記載の中で、更なる周知に努めるとともに、時代や市民ニーズに沿った手法を検討していく。</p> <p>【③について】 施策1「市民とともにつくる市政の推進」は、「行政の透明性・説明責任」と「市民意見を反映した市政」を目標におく計画で、デジタル化推進は目標達成のための重要な1手段(ツール)と考える。計画の主な取組中「様々な手段・媒体を有効に活用して」とあり、その中で、今後デジタル化推進を積極的に考えていく。 なお、デジタル化の推進は、各施策共通の課題であり、施策ごとに記入するには、基本構想部分で方向性を示すなどの位置付けが必要ではないか。</p>	<p>価値観や生活様式の変化・多様化に伴い、行政サービスに対する市民ニーズも複雑・多様化している中、分かりやすく市政情報を提供するとともに、市民の意見を十分に活かしながら市政を推進する必要があります。</p>	<p>市政情報を迅速に分かりやすく提供するとともに、多くの市民意見を市政に活用している。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・地域社会で若者・女性があらゆる分野で参画できる ・地域間交流が自然とわきおこる楽しいまち ・全ての人が、活躍できる場の確保ができていく ・責任を分かち合うことができ、平穏な生活が送れ、安全で安心なまち ・デジタル上で、市民の困りごとや意見を直ちに行政に共有することができる</p>	<p>・デジタルという考えは今後反映していくことが可能なのか。検討していくという考えはあるのか。</p>	<p>【⑦について】 ・若者や女性の意見を市政に反映することは課題の一つである。ただし、高齢化や性別の多様性の中で、計画中に特記するのではなく、現計画の「多くの市民意見」という中で若者・女性を含めた多くの市民参画の検討・事業実施を目標としていく。 ・地域間交流・まちのにぎわいづくりは、別施策での対応が適切であると思われる。 ・総活躍社会の実現は、別施策での対応が適切であると思われる。 ・安心・安全なまちづくりは、別施策での対応が適切であると思われる。 ・迅速な市民意見の共有は重要であり、デジタルの活用は大変有効である。計画の主な取組中「様々な手段・媒体を有効に活用して」とあり、その中で、今後デジタルの活用を重要な手段の一つとして考えていく。</p> <p>【⑧について】 ・デジタル化の推進は、各施策共通の課題であり、施策ごとに記入するには、基本構想部分で方向性を示す等しないと、横軸になってこない。</p>	<p>市政情報を迅速に分かりやすく提供するとともに、多くの市民意見を市政に活用している。</p>	広報広聴課
		2	市民によるまちづくり活動への支援	<p>市内全地区において、住民自治協議会を中心に市民によるまちづくりが実践されています。地域における課題が複雑・多様化している中、行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による協働のまちづくりを推進する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・中山間地域の人口減少が進んでいる ・地域では担い手が不足している ・コミュニティの維持・義務的な地域活動となっている ・地域を支えている人がいる ・住民自治協議会が定着し、地域主体の取り組みが行われている ・住む以外の繋がりが方がない</p>	<p>・地域の担い手が不足していることは課題となっており、デジタルを活用することにより、解決のヒントになってくるのではないかと考える。 ・デジタル化をいかに主な取組に反映させていくのかが重要なポイントである。</p>	<p>【②について】 作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、変更不要と考える。</p>	<p>市内全地区において、住民自治協議会を中心に市民によるまちづくりが実践されています。地域における課題が複雑・多様化している中、行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による協働のまちづくりを推進する必要があります。</p>	<p>行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による協働のまちづくりが、暮らしやすい地域社会につながっている。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・ボランティア活動に大勢の市民が参加している ・民間が行政をサポートできる仕組みができていく ・地域コミュニティがある(隣近所との交流、居場所、近所での挨拶、助け合い) ・集落おさめができるまち ・LGBTなど多様性を受け入れるまち ・強制的ではない快くまわる地域活動 ・市民が自らまちづくりをしたいと思えるまち ・地域社会で若者・女性があらゆる分野で参画できる ・地域間交流が自然とわきおこる楽しいまち ・全ての人が、活躍できる場の確保ができていく ・責任を分かち合うことができ、平穏な生活が送れ、安全で安心なまち ・市民が案内人となり、自分軸で楽しめ、面白がれる</p>	<p>・デジタルという考えは今後反映していくことが可能なのか。検討していくという考えはあるのか。</p>	<p>【⑦について】 ・LGBTなど多様性を受け入れるまち→この意見は、「2-5-1 人権尊重社会の実現」に該当すると考える。 ・責任を分かち合うことができ、平穏な生活が送れ、安全で安心なまち→この意見は、「4-2-1 防犯対策の推進」にも当てはまると考える。 ・その他の意見→作業部会の意見は、その旨が、目指す状態に向けた主な取組に含まれているため、変更不要と考える。</p> <p>【⑧について】 住民自治協議会と連携をしていくにあたり、リモートでの会議の設定を今後進めていかなければならない。情報提供の方法としてもDX化し、デジタルを使っていくことも今後、検討していく必要がある。</p>	<p>行政、市民、地域コミュニティ組織、市民公益活動団体、民間企業など多様な主体による協働のまちづくりが、暮らしやすい地域社会につながっている。</p>	地域活動支援課

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(行政経営分野)

分野	政策	施策	①現況と課題	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
1 行政経営	2 将来にわたり持続可能な行政運営の確立	1 効果的で効率的な行政運営の推進	●少子・高齢化が進行する状況において、社会保障関係費は増大の一途であり、引き続き厳しい財政運営が予想される中、「選択と集中」や「民間活力の活用」などにより効果的で効率的な行政運営に取り組み、安定的な行政サービスを持続して提供していく必要があります。  ●公共施設については、多くの施設が老朽化し、改修や更新費用の増大などが見込まれることから、公共施設マネジメント指針で示した今後20年間で延床面積を2割削減する目標を見据え、「量」と「質」の両面から計画的見直しが必要です。	【作業部会の意見】 ・民間の力を活用している場合もあるが、協働までは至っていない	・デジタル化をいかに主な取組に反映させていくのが重要なポイントである。	【②について】 ・作業部会の「協働までは至っていない」意見を反映させる。 なお、作業部会からの意見は、公共施設マネジメント分野には該当しないと考えられる。	●人口減少・少子高齢化が進行する状況において、増大する社会保障関係費や喫緊の課題解決に向けた対応などのため、一段と厳しい財政運営が予想される中、「選択と集中」や「地域資源・民間活力の活用」などにより効果的で効率的な行政運営に取り組み、安定的な行政サービスを持続して提供していく必要があります。	安定的な行政サービスが提供される持続可能な財政基盤が構築されている。	【作業部会の意見】 ・行政運営に民間の人が活用されている ・社会課題解決に民間が関わりやすい	・デジタルという考えは今後反映していくことが可能なのか。検討していくという考えはあるのか。	【⑦について】 ・作業部会の意見については、具体的な事項であるため、目指す状態ではなく、主な取組に反映できるか検討する。  【⑧について】 喫緊の課題(台風災害、新型コロナウイルス感染症)のなかで、ICTに力を入れ、何かできないか具体的に考えて行かなければならない。	安定的な行政サービスが提供される持続可能な財政基盤が構築されている。	行政管理課
		2 市民の満足が得られる市政の推進	価値観や生活様式の変化などに伴い、複雑・多様化する市民ニーズを踏まえた質の高い行政サービスを提供していくために、成果を重視した行政運営の推進とともに、ICTの利活用及び職員の能力向上や効率的な職員配置、組織づくりが必要です。	【作業部会の意見】 ・デジタル格差の解消 ・全てがアナログになっている。  【企画課からの提案】 国におけるデジタル化の推進の動き(デジタル庁の設置)	・国におけるデジタル化の動きを念頭に置き、複雑・多様化にはどのようなことを想定している、どのような方法を考えているのか。 ・現況という部分でももう少し具体的に、現状どうなっているのか記載してもらえるとより、プロセスの課題についても伝わりやすくなる。 ・デジタル化をいかに主な取組に反映させていくのが重要なポイントである。	【②について】 ・作業部会の意見の提案については、その旨が現行のものに含まれているため、変更不要と考える。 ・企画課からの「国におけるデジタル化の推進の動き」の提案を反映させる。  【③について】 国においてはデジタル庁を設置し、DX化を目指しており、様々なシステムについても全国統一のものが提供されるようになる。具体的な手段としては、⑦作業部会の意見のものを実現していく。	国におけるデジタル化の動きを念頭に置き、複雑・多様化する市民ニーズを踏まえた質の高い行政サービスを提供していくために、成果を重視した行政運営の推進とともに、次世代の社会の姿を見据えたICTの利活用及び職員の能力向上、効率的な職員配置、組織づくりが必要です。	市民ニーズを踏まえた質の高い行政サービスを提供している。	【作業部会の意見】 ・あらゆる申請がデジタルででき、自宅からでも行政手続きができる ・行政手続きがワンストップである。 ・DX化、キャッシュレス、デジタル化、ペーパーレス化がされている  【企画課からの提案】 ・国におけるデジタル化の推進の動き(デジタル庁の設置) ・Society5.0	・デジタルという考えは今後反映していくことが可能なのか。検討していくという考えはあるのか。	【⑦について】 ・作業部会の意見、企画課からの提案については、具体的な事項であるため、目指す状態ではなく、主な取組に反映できるか検討する。	デジタル技術等を用い、市民ニーズを踏まえた質の高い行政サービスを提供している。	行政管理課
		3 地方中核都市としての役割の遂行	地方中核都市としての役割が本市に求められる中、近隣市町村等との連携や中核市相互の連携を強化し、連携する市町村全体の発展を見据え、行政サービスを充実する必要があります。	・デジタル化をいかに主な取組に反映させていくのが重要なポイントである。	【③について】 主な取組に反映できるか検討する。	地方中核都市として、近隣市町村等との連携や中核市相互の連携を強化し、人口減少対策や経済基盤の強化に取り組むことで連携する市町村全体の発展を見据え、持続可能な地域づくりを目指す必要があります。	地方公共団体間の連携を有効に活用し、連携する市町村全体が発展している。	・デジタルという考えは今後反映していくことが可能なのか。検討していくという考えはあるのか。	【⑧について】 「デジタル化」については、基本構想自体には修正を加えないことを前提として作業を行っている。今後、重点推進テーマの中でキーワードとして市民が見て、意識できるような工夫をしていく。	地方公共団体間の連携を有効に活用し、連携する市町村全体が発展している。	企画課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
2	保健・福祉	1 少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	若い世代の未婚化や晩婚化が進行しているとともに、妊娠・出産、子育てに対する不安、悩みや負担感が大きくなっていることから、社会全体で結婚、妊娠・出産、子育てを大切に、切れ目なく支援する必要があります。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未婚率の低下をストップする</li> <li>→行政による結婚支援のあり方はどうあるべきか</li> <li>結婚支援が手薄と感じる</li> <li>家庭で親子が過ごす時間を長くする(今は短い)</li> <li>子育てに男性が参加してもらいたい</li> <li>育児のワンオペの解消が必要</li> <li>子育てに関して困ったことが言えるまちづくりが必要</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育て中の社員・職員に対する仕事上の理解が必要。当事者だけではなく、周囲の理解が必要</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「更なる結婚支援の充実」、「男性の子育て参加」について、触れることは可能でしょうか。</li> </ul>	(結婚支援:マリッジサポート室) 結婚支援に関しては、未婚率の上昇を抑え、婚姻件数の減少をストップさせるため、平成26年度から実施している結婚セミナーは「出会いのきっかけづくり」支援から一歩踏み込み、「交際につながる後押し」支援への移行を検討する。 結婚応援ボランティア「夢先案内人」の中でも特に相談経験があり、成婚につながった実績のある「夢先案内人」を「(仮称)夢先サポーター」として選任し、結婚希望者の相談に対応する。	【②について】(全般:こども政策課) 課題としては、女性の就業率の高まりや、家事・育児の負担の女性への偏りなども挙げられる。	若い世代の未婚化や晩婚化の進行とともに、 <u>母親の就業意欲の高まりによる仕事と子育ての両立への課題、子育てへの不安や負担感があることから、更なる結婚支援の充実や男性の子育てへの参画促進など</u> 、社会全体での結婚、妊娠・出産、子育てを切れ目なく支援する必要があります。	若い世代が結婚や妊娠・出産についての希望をかなえ、温かい社会の中で安心して子どもを育てている。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分で判断し、結婚したいと思える</li> <li>結婚や子育てが楽しいと思える</li> <li>様々な(多様な)カップルが認められる。</li> <li>その人の選択がちゃんと尊重される世の中に</li> <li>命の大切さ(を自覚し)、命を大切にできる自分(を形成する)</li> <li>出生数の増加</li> <li>子どもが多い</li> <li>妊娠する人 →安心して妊娠できる</li> <li>お母さん達が子どもを産んでよかったと思える</li> <li>出産、子育てでお母さんが一人で悩まないまち</li> <li>親子で過ごす時間は、母子1対1が多いので、母親だけで頑張らなくてよい</li> <li>家庭で子育てができる(核家族化等で家庭の子育て力が低下)</li> <li>地域で子育てができる</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出産後も安心して子育て、仕事ができる環境が必要。職場を含む社会環境が整っていないと、安心して出産、子育てができない。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会では「多様性」がキーワードとなったので、例えば、「多様な形態のカップルや家族が」といった表現が入れられるでしょうか。</li> </ul>	<p>「多様」には、ひとり親、外国籍、障害、同性婚、事実婚・内縁などがあると思うが、子育て支援施策にキーワードとして入れることは馴染まないのではないか?はもともともであるが、同性婚、事実婚、ジェンダーフリーは、どのあたりに反映されているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「子育てに楽しさを感じながら」を加えているが、子育て自体が難易極まるものと考えと、ちょっと軽い受けとめになっちゃうと感ずるので、楽しさに加えて、例えば「生きがい」など何か別の言葉も入れた方がよいのではないかと。</li> </ul>	<p>【⑦について】(全般:こども政策課)</p> <p>「多様」には、ひとり親、外国籍、障害、同性婚、事実婚・内縁などがあると思うが、子育て支援施策にキーワードとして入れることは馴染まないのではないか。</p> <p>第二期長野市子ども・子育て支援事業計画では、基本目標の1つとして「結婚の良さや子育ての楽しさを実感できる支援をする」としている。</p> <p>(結婚支援:マリッジサポート室)</p> <p>社会全体で結婚を応援する機運を高め、結婚生活の魅力を伝える取組を推進する。</p> <p>「多様性」は「人権尊重社会の実現」施策の中での検討が妥当である。</p> <p>【⑧について】(こども政策課)</p> <p>「子育てに楽しさを感じながら」について、「生きがい」は、生きることの価値を見出す意味を持つ言葉であるが、親の立場での視点が強く、子どもの育ちという面が希薄に感じられる。ご意見のとおり、子育てには楽しみもあれば苦労や大変さもある。苦労や大変さがあってもそれ乗り越え、子育てが満足な思いにつながるという意味合いで、「生きがい」ではなく、「喜び」が適切と考える。</p> <p>子ども・子育て支援事業計画においても、基本理念を「すべての子育てが喜びとなり すべての子どもが健やかに成長するために」とし、保護者が子育てに喜びを感じることができる社会を目指すとしている。</p>	若い世代が結婚や妊娠・出産についての希望をかなえ、 <u>子育てに楽しさや喜びを感じながら</u> 、温かい社会の中で安心して子どもを育てている。	こども政策課
		2 子どもの成長を育む環境の充実	乳幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎をつちかうとともに、「学びの入口」としても重要であることから、家庭、地域、幼稚園・保育所・認定こども園が、教育・保育に対する共通の認識を持ち連携しながら、子どもの健やかな育ちを支えていく必要があります。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>子育てに関して困ったことが言えるまちづくりが必要</li> <li>子どもに応じた支援の充実</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育所等の保育士は多様な育ちの子どもに対応できるように、スキルアップが必要</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会で出た「子どもに応じた支援」といった旨の表現は入れられるでしょうか。</li> </ul>	【②について】 企画課からの提案を反映させる。	乳幼児期の教育・保育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培うとともに、「学びの入口」としても重要であることから、家庭、地域、幼稚園・保育所・認定こども園が、教育・保育に対する共通の認識を持ち連携しながら、子ども一人ひとりの健やかな育ちを支えていく必要があります。	乳幼児期の子どもが、安心感や人への信頼感を土台にして健やかに育ち、その後の発達・成長の基礎となる力を着実に育んでいる。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(子育てという親の課題となってしまうので、子どもも子どもなりに生き活きとできる)「親子が生き活き」できるまち</li> <li>家庭で子育てができる(核家族化で家庭の子育て力が低下)</li> <li>地域で子育てができる</li> <li>教育にあまりお金がかからない</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母親の心の安定が子どもの健やかな育ちに繋がる。母子の支援が必要。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例えば「地域社会」といった表現で社会全体で子育てできる環境整備という視点を加えるのはどうでしょうか。</li> </ul>	【⑦について】 作業部会のご提案については、具体的な事項であるため、目指す状態ではなく、主な取り組みに反映できるか検討する。	乳幼児期の子どもが、安心感や人への信頼感を土台にして健やかに育ち、その後の発達・成長の基礎となる力を着実に育んでいる。	保育・幼稚園課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
2	保健・福祉	1 少子化対策、切れ目ない子ども・子育て支援	3 社会的援助を必要とする家庭等の自立支援	<p>厳しい社会・経済状況の中、ひとり親家庭などで就労・就学が困難な状況に置かれている人に対し、経済的に厳しい状況が次世代に連鎖しないよう支援する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・子育てに関して困ったことが言えるまちづくりが必要 ・新型コロナウイルスにより社会的弱者(ひとり親、生活困窮者等)の困難さが一層あらわになった一何とかなしといけない ・経済の自立(子育て世代～高齢者) ・格差(経済格差、経験格差)の是正が必要</p> <p>【企画課からの提案】 ・コロナ禍でひとり親家庭の困難さが増していると思われるので、更なる支援(就業等)について触れることは可能でしょうか。 ・コロナ禍で児童虐待の件数が増え、外から見えづらくなっているとの記事を見ましたが、長野市はどのような状況にあるのでしょうか。同様の傾向にあるならば、触れるのはどうでしょうか。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・作業部会の「子育てに関して困ったことが言える～」は、このような相談に応じて、必要な支援につなげていく必要があるため、反映させる。 ・作業部会の「新型コロナウイルスにより～」は、国や市で支援をしているところであるが、今後も継続した支援が必要と思われるため、「経済的な自立」という文言に含め、反映させる。 ・作業部会の「経済の自立」は、ひとり親家庭に関して支援が必要と考えられるため、反映させる。(高齢者は施策範囲外のため除く) ・作業部会の「格差の是正～」は、「経済的な自立」等の文言で反映させる。 ・企画課からの「コロナ禍でひとり親家庭の困難さ～」は、的確な提案と捉えるが、「経済的な自立」や「次世代に連鎖」などの文言に包含されていると考える。 ・企画課からの「コロナ禍で児童虐待の～」は、児童虐待は近年、認識の高まりにより相談対応件数が増えており、コロナ禍が起因しているものとは考えていないため、反映させない。</p>	<p>【②について】 ・作業部会の「子育てに関して困ったことが言える～」は、このような相談に応じて、必要な支援につなげるほか、厳しい社会・経済状況の中、ひとり親家庭などで就労・就学が困難な状況に置かれている人に対し、<b>経済的な自立に向けた支援とともに</b>、経済的に厳しい状況が次世代に連鎖しないよう支援する必要があります。</p>	<p>すべての子どもが安定した環境の中、安心して暮らしている。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・出産、子育てでお母さんが一人で悩まないまち ・親子で過ごす時間は、母子1対1が多いので、母親だけで頑張らなくてよい ・家庭で子育てができる(核家族化等で家庭の子育て力が低下) ・地域で子育てができる ・教育にあまりお金がかからない</p> <p>【企画課からの提案】 コロナ禍で親が失業・休業し、子どもは休園・休校等で、親子が過ごす時間が減る一方で、社会的に孤立していく可能性が高まるので、「地域に見守られ」といった趣旨の表現を入れるのはどうなんでしょうか。</p>	<p>【⑦について】 ・作業部会の「出産、子育てで～」は、「親子で過ごす時間は～」は、支援制度の周知や相談対応により必要な支援につなげていく必要があるため、「相談につなげられる」に意味を含めて反映させる。 ・作業部会の「地域で～」は、「地域」を盛り込んで反映させる。 ・作業部会の「教育に～」は、ひとり親世帯等の社会的援助が必要な家庭への支援は取り組んでいくが、一般的な世帯を含める場合、施策に適さないとと思われるので、反映しない。 ・企画課からの提案内容は、適切な提案と思われるので反映させる。</p>	<p>子育てに関する保護者等が悩みを抱え込むことなく相談につなげられ、すべての子どもが安定した環境の中、<b>地域に見守られながら</b>、安心して暮らしている。</p>	子育て支援課		
		2 生きがいのある豊かな高齢社会の形成	1 高齢者の社会参加と生きがいの促進	<p>老人クラブへの支援や老人福祉センターの講座などを通じて、高齢者の社会参加や生きがいづくりを支援しています。更なる少子・高齢化の進行に伴い、高齢者が自らの経験や能力を活かし活躍することがより一層求められることから、高齢者がこれまで以上に地域社会の担い手として活躍することを促すとともに、就労に向けて支援する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・住民の主体性について、高齢化で役員の担い手が不足し運営が難しい ・住民の主体性を行政がしっかり支援する ・年齢別のスポーツの場。相手がほしい(高齢者、中年)</p> <p>【企画課からの提案】 ・地区によっては、急激な高齢化が進んでおり、促すだけでは難しい場合もあると思われるので、「担い手として活躍することを促すとともに支援する必要があります」といった表現とするのはどうでしょうか。 ・前期基本計画には、就労支援について記載がありますが、社会で活躍するための就労支援の必要性を触れるのはどうでしょうか。</p>	<p>【②について】 ・地域の担い手が高齢化している課題は別の課題であり、ここで取り上げる課題ではないと考えますので、表記を変更することは考えていません。 ・生きがいづくりの中に、就労という一つの形があると考えますので、就労支援のみ特記することはありません。</p>	<p><b>学びやボランティア活動、就労</b>などを通じて、高齢者の社会参加や生きがいづくりに<b>取り組んでいます</b>。更なる少子・高齢化の進行に伴い、高齢者が自らの経験や能力を活かし活躍することがより一層求められることから、高齢者がこれまで以上に地域社会の担い手として活躍することを促す必要があります。</p>	<p>高齢者が自らの経験や能力を活かし積極的に社会に参加し、生きがいを感じながらいきいきと暮らしている。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・高齢者活躍と言うと死ぬまで働くというイメージがあるので、色々な生き方で、それぞれが生き生きと生きられる社会</p> <p>【企画課からの提案】 作業部会で「色々な生き方」、「それぞれが生き生き」といった意見が出たので、「様々な場所や形で生きがいを感じながらいきいきと暮らしている。」といった表現を加えるのはどうでしょうか。</p>	<p>【⑦について】 多様性のある生きがいづくりを目指していきますので、提案いただいた表現を一部修正して加えます。</p>	<p>高齢者が自らの経験や能力を活かし積極的に社会に参加し、<b>様々な場面で</b>生きがいを感じながらいきいきと暮らしている。</p>	高齢者活躍支援課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
2	生きがいの豊かな高齢社会の形成	2	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるために、医療、介護、介護予防、住まい、生活支援を切れ目なく提供する地域包括ケアシステムを実現する必要があります。	【作業部会の意見】 ・介護について困ったことが言えるまちづくりが必要 ・親の介護(看護)の不安がある ・高齢者の終末への応援・配慮が必要 ・SDGsの考え方で誰も取り残さない →市のセーフティーネットのほころびはないのか  【企画課からの提案】 地域包括ケアシステムの深化・推進に 変更したいところ → 基本構想の変更には当たらないとし、「高齢者福祉サービスの充実」から変更する。		【②について】 地域包括ケアシステムの推進に当たって、現状では、介護サービスの提供や介護予防の推進に加え、医療と介護の連携、看取り・ACPへの取組を推進するほか、新たに「重層的支援」への取組が求められている。あんしんいきいきプラン21では、これらの概念的な内容を反映した「長野市版地域包括ケアシステムの目指す姿」を掲載することとしていることから、その理念を反映し、新たに「保健」というキーワードを追加する。	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を続けるために、医療、介護、 <b>保健</b> ・介護予防、住まい、生活支援を切れ目なく提供する地域包括ケアシステムを充実させる必要があります。	高齢者が自ら介護予防の取組を実践するとともに、介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域の中で、必要な介護を受けながら安心して暮らしている。	【作業部会の意見】 ・在宅で親の介護ができるまち ・在宅介護と在宅医療が連携されたまち ・慣れ親しんだ地域、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる。 ・高齢者が移動しやすい  【企画課からの提案】 「高齢者が自ら介護予防の取組を実践し健康を維持するとともに、介護が～」といったような健康寿命の延伸を趣旨とする表現を更に入れるのはどうでしょうか。		【⑦について】 ①健康の維持(保健)と介護予防を一体的に取り組む表現とする。 ②地域包括ケアシステムの具体的・象徴的なイメージを喚起するため、作業部会意見の「最後まで自分らしく」を追加する。 ③「高齢者の移動」という概念は公共交通の維持・推進と一体であり、地位包括ケアシステムでの互助による移送は公共交通で賄えない福祉的な移送を担保するものであることから、この施策においては記載しない。	地域包括ケア推進課	
		3	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	障害福祉サービスに対する需要が年々増加するとともに多岐にわたっていることから、障害のある人一人ひとりの状況を的確に把握した上で、適切に支援する必要があります。	【作業部会の意見】 ・障がい者を事業所がテレワークで使えるようにしてほしい ・難病患者の就労支援、生活支援が足りない(24時間ケアを含む) ・新たな支援やサービスの担い手の問題がある ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制が欠けている(ひきこもりの問題等) ・SDGsの考え方で誰も取り残さない →市のセーフティーネットのほころびはないのか ・新型コロナウイルスにより社会的弱者(ひとり親、生活困窮者等)の困難さが一層あらわになった →何とかしないといけない  【企画課からの提案】 ・作業部会で障がい者を事業所がテレワークで使えるようにとの意見が出ましたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴うサービス提供への課題等について触れることはどうでしょうか。	企画課からの提案は、テレワークを新型コロナウイルス感染症に結び付けているが、こちらの趣旨は、感染拡大とは関係なく、テレワークであれば働ける人がおり、多くの人にテレワークを認めてもらいたいということである。	【②について】 ・作業部会の意見の障害者のテレワークについては、事業所が実施しシステムを整備するものであるが、新型コロナウイルス感染症対策に係る事業として、テレワークシステムの導入を希望する事業所に導入経費の支援を行うなど、現行のサービス提供体制の中で実施している。また、ひきこもり問題や生活困窮等については、第一義的にはこの分野には当てはまらないため、反映させない。  【③について】 (企画課) 委員のテレワークについての趣旨を理解した。	●障害福祉サービスに対する需要が年々増加するとともに多岐にわたっていることから、障害のある人の状況や <b>要望等を的確に把握し、必要な支援が適切に提供できる体制の確保が必要となります。</b> ● <b>障害に対する理解を促進し、障害者差別の解消に向けた取組を進める必要があります。</b>	障害の有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らしている。	【作業部会の意見】 ・地域共生社会の促進 ・障がいがある人もない人も一緒に活動できる  【事務局】 ・周囲の障害特性についての理解が必要。接し方がわからない人が多い  【企画課からの提案】 「暮らしている」に加えて、地域共生社会の促進ということで、「活動」や「社会参加」について触れることはどうでしょうか。	【⑦について】 ・作業部会の意見、企画課からの提案内容は、その旨が現行計画の主な取り組みとして実施している	障害の有無によって分け隔てられることなく、だれもが自分らしく安心して暮らしている。	障害福祉課

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
2	保健・福祉	3	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	2	認め合い、支え合い、活かし合う地域社会の実現								福祉政策課
			<p>単独世帯の増加などにより、家族や地域住民相互のつながりが希薄化する中で、社会的孤立等地域における新たな課題が生じていることから、行政・住民・関係機関等が連携して解決に取り組む必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制が欠けている(ひきこもりの問題等) ・住民の主体性について、高齢化で役員の担い手が不足し運営が難しい ・役員の担い手不足の問題</p> <p>(幸せ実感モニター) 近所付き合いがない</p> <p>【企画課からの提案】 「社会的孤立等」は新たな課題のまま残しますか? 「新たな」を削るか、他に課題があれば記載していただくのは、どうでしょうか。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・「新たな」は不要加えらるとすれば、生活弱者の増加、社会的孤立、ダブルケア、8050問題、ごみ屋敷など世帯全体が社会から孤立するなど課題が複合化・複雑化 自殺者2万人時代、子どもの貧困、高齢化の進展と人口減による深刻な担い手不足 血縁、地縁、社縁という、日本の社会保障制度の基礎となってきた「共同体」の機能の脆弱化 ・単独高齢世帯の増加、近所付き合いの希薄化、人口減・定年延長などによる地域福祉や役員の担い手不足に加え、台風被災、コロナ禍による売上減や雇用調整などにより、地域住民が抱える課題が複合化・複雑化している。</p> <p>・作業部会の意見について、一点目は、対象が限られており視野が狭い。二・三点目は今後更に深刻になる課題</p>		<p>【②について】 ・「新たな」は不要加えらるとすれば、生活弱者の増加、社会的孤立、ダブルケア、8050問題、ごみ屋敷など世帯全体が社会から孤立するなど課題が複合化・複雑化 自殺者2万人時代、子どもの貧困、高齢化の進展と人口減による深刻な担い手不足 血縁、地縁、社縁という、日本の社会保障制度の基礎となってきた「共同体」の機能の脆弱化 ・単独高齢世帯の増加、近所付き合いの希薄化、人口減・定年延長などによる地域福祉や役員の担い手不足に加え、台風被災、コロナ禍による売上減や雇用調整などにより、地域住民が抱える課題が複合化・複雑化している。</p> <p>・作業部会の意見について、一点目は、対象が限られており視野が狭い。二・三点目は今後更に深刻になる課題</p>	<p>単独世帯の増加などにより、家族や地域住民相互のつながりが希薄化する中で、社会的孤立等地域における課題に加え、高齢化や生活困窮などの課題が複合的に生じている世帯が増えていることから、行政・住民・関係機関等が連携して解決に取り組む必要があります。</p>	<p>市民一人ひとりが、地域の中で互いに認め合い、支え合い、活かし合いながら、いきいきと暮らしている。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・一人ぼっちじゃない社会 ・お隣さんと交流がもてるまち ・住民の主体性を行政がしっかり支援する ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制の確立した社会 ・ひきこもり(家族も)の居場所があるまち</p> <p>【企画課からの提案】 地域の中で「支え合い」はイメージが沸くのですが、「活かし合い」については具体的なイメージがつかみにくいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>		<p>【⑦について】 ・「…一人ひとり…」本来は、「一人一人」と書き表すものだが、国では、社会福祉の分野では、「一人ひとり」としていることが多いためこのようにしている。</p> <p>・⑦の意見は、孤立や引きこもりに偏っている。相談・支援体制の確立した…は手段であり、目的でない →目指す状態に記載する内容は、全市民に共通するビジョンであることが必要</p> <p>・「活かし合う」とは、支える・支えてもらうという関係ではなく、高齢者や障害者など、これまでは支えてもらう側であることが多かった人も、支える側として地域社会に参画することを示している。</p> <p>・地域共生社会の実現のためには、支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことができる仕組みを構築する必要がある。</p>	<p>市民一人ひとりが、地域の中で互いに認め合い、支え合い、活かし合いながら、<b>安心して自分らしく</b>いきいきと暮らしている。</p> <p>(※第三次長野市地域福祉計画で目指す将来像)</p>	福祉政策課

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
2	保健・福祉	3	だれもが自分らしく暮らせる社会の形成	3	生活の安定と自立への支援	<p>近年の雇用状況の変化に伴い、既存の社会保険制度・労働保険制度や最終的なセーフティネットである生活保護制度だけでは、市民の安定した生活を支えきれなくなっていることから、生活に困っている人が自立した生活を送れるように支援する「第2のセーフティネット(生活困窮者自立支援制度)」を充実する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】 ・SDGsの考え方で誰も取り残さない →市のセーフティネットのほころびはないのか ・生活困窮者対策の現状はうまくいっているのか ・新型コロナウイルスにより社会的弱者(ひとり親、生活困窮者等)の困難さが一層あらわになった →何とかしないと ・経済の自立(子育て世代～高齢者) ・格差(経済格差、経験格差)の是正 ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制が欠けている(ひきこもりの問題等) ・新たな支援やサービスの担い手の問題</p> <p>【企画課からの提案】 ・「近年の雇用状況の変化」について、具体的に記載していただくことは可能でしょうか。 ・作業部会ではコロナの感染拡大による問題(社会的弱者の一層の困窮)やSDGs視点(誰ひとり取り残さない)からの意見が出ましたが、触れていただくことは可能でしょうか。 ・子どもや女性、外国人の貧困問題等については、担当課だけでは解決が困難と思われるが、部局横断的対応や地域との連携の必要性はありますか。また、ある場合は触れることは可能でしょうか。</p>	<p>【②について】 ・作業部会の意見は、その旨が現行の「生活に困っている人が自立した生活を送れるように支援する「第2のセーフティネット(生活困窮者自立支援制度)」を充実する必要があります。」に含まれているため、特に記載は変えない。 ・企画からの「近年の雇用状況の変化」は、タイムリーな現象(変化)と、多種多様な分野が想定されるため具体的な記載には触れない。 ・社会的弱者の一層の貧困、誰ひとり取り残さないについては、現行のものに含まれるため、特に記載は変えない。</p> <p>・生活困窮に至る要素は雇用以外にも様々あるが、支援の体制が分野別、対象者別になっており、各種の制度・福祉サービスは、当事者の特性や個別のニーズに応じた枠組みにおいて実施されている。 ・生活困窮者自立支援法は、生活保護に至る前の段階の自立支援策を強化するものであり、生活困窮者に対する様々な支援策を実施しており、新型コロナウイルスの現況においては、さらに自立支援事業を実施する自立支援機関の体制強化が必要である。 ・最後のセーフティネットである生活保護制度と両輪で機能することが必要であり、さらに、重層的なセーフティネットも求められている。</p>	<p>だれもが幾重にもはりめぐらされたセーフティネットに守られ、その状況に応じて可能な限り自立し、困窮することなく安定した生活を送っている。</p>	<p>【作業部会の意見】 切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制の確立した社会</p> <p>【企画課からの提案】 「その状況に応じて可能な限り自立し」「支援」の文言を加え、「その状況に応じた支援を受け、可能な限り自立し」とするのはどうでしょうか。</p>	<p>【⑦について】 ・作業部会の意見は、その旨が現行の「だれもが幾重にもはりめぐらされたセーフティネットに守られ、その状況に応じて可能な限り自立し、困窮することなく安定した生活を送っている。」 ・企画課からの提案については、「セーフティネットに守られ」としていることから、特に記載は変えない。</p> <p>・ライフステージを通じて、可能な限り自立した生活を送ることができるよう、分野や制度を超えた包括的な支援体の一翼となり、既存の個別的なニーズに対応する制度・サービスを活用しながら、自立の形は多様であることを十分理解し、自分の意志で自立に向けて、困窮することなく安定した生活を送れることを目指す。</p>	<p>だれもが幾重にもはりめぐらされたセーフティネットに守られ、その状況に応じて可能な限り自立し、困窮することなく安定した生活を送っている。</p>	生活支援課	
		4	安心して暮らせる健康づくりの推進	1	健康の保持・増進の支援	<p>●市民の平均寿命が延伸する中、健康寿命を延ばし、「不健康な状態の期間」を減らすことが重要であることから、市民が自立した生活を送ることができるよう、健康の保持・増進を支援することが必要です。</p> <p>●30年以上にわたり、市民の死因の第1位はがん(悪性新生物)であることから、がんの予防と早期発見・早期治療を併せて推進することが必要です。</p> <p>【作業部会の意見】 ・自分の体・健康に関心を持ってほしい(自分事意識) ・健康維持のため、運動をしてもらいたい ・新型コロナウイルスの影響でスポーツの機会が減っている</p> <p>【事務局】 ・子どもの頃から健康教育により理解が促進されることにより、親子で健康について理解が促進される。</p> <p>【企画課からの提案】 健康寿命の延伸やがんの予防などに対して、「(若い時から)自身の健康意識を高める必要がある」といった表現を入れるのはどうでしょうか。</p>	<p>【②について】 健康寿命の延伸やがん予防に対して、子どもの頃から健康習慣の確立や生活習慣の改善が重要となるため、自身の健康意識を高め、生涯を通じた健康づくりの実践が必要である。</p>	<p>●少子高齢化が急速に進む中、人生100年時代を見据え、生き生きと健康で自立した生活を送り続けることが重要であることから、一人ひとりが健康意識を高め、生涯を通じて主体的に健康づくりに取り組むことが必要です。</p> <p>●30年以上にわたり、市民の死因の第1位はがん(悪性新生物)であることから、がんの予防と早期発見・早期治療を併せて推進することが必要です。</p>	<p>市民一人ひとりが健康の大切さを認識し、生涯を通じて主体的に健康づくりに取り組み、自分らしく生きがいをもって生活している。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・人的資源のロス(がんによる死亡、ひきこもり、不登校)をなくす ・身近なIT機器による簡単、確実な健康管理ができる</p> <p>・子どもの頃から健康に対する意識を高める。親から子へと健康の大切さを伝えていける環境があるといい。親も子どもも生き生き</p>	<p>【⑦について】 ・生活習慣病予防は、子どもの頃から健康習慣の確立や一人ひとりの予防意識が重要であることを認識した上で現在も取り組んでいる。</p>	<p>市民一人ひとりが健康の大切さを認識し、生涯を通じて主体的に健康づくりに取り組み、自分らしく生きがいをもって生活している。</p>	健康課

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課			
2	保健・福祉	4	安心して暮らせる健康づくりの推進	2	保健衛生の充実	健康の不安、対人関係、経済的理由など様々な要因が複雑に絡み合い、強いストレスを感じる人やこころを病む人が増えていることから、こころの健康づくりを推進する必要があります。	【作業部会の意見】 ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制が欠けている(ひきこもりの問題等) ・SDGsの考え方で誰も取り残さない →市のセーフティーネットのほころびはないのか ・新型コロナウイルスにより社会的弱者(ひとり親、生活困窮者等)の困難さが一層あらわになった →何とかしないと ・不登校の子が学校を卒業したらひきこもり支援に繋げる ・新たな支援やサービスの担い手の問題	【企画課からの提案】 ・新型コロナウイルスの感染拡大への対応で課題になったことを入れていただくことは可能でしょうか。 ・新型コロナウイルスの感染拡大による感染症の予防について、市民に自覚を促す表現を入れるのはどうでしょうか。 ・ひきこもりが社会的に大きな問題になっており、精神的に何らかの問題を抱えている場合が多いと思われそうですが、支援体制の課題等はあるのでしょうか。また、ひきこもりの文言を入れることは可能でしょうか。	【②について】 ・ひきこもりに対する支援体制に課題はあるが、こころの健康の対象はひきこもりだけではなく、こころの健康でひきこもりだけを特別に出すことに疑問はありますが、ひきこもりの文言は入れました。 ・「保健衛生の充実」に「こころ」だけでなく「感染症対策」について加えることは必要だと思います。	●新興感染症や再興感染症の世界的流行に備えた体制整備と、感染症予防に対する正しい知識の普及啓発が必要です。  ●健康の不安、対人関係、経済的理由など様々な要因が複合的に連鎖し、加えて新興感染症による生活様式の変化や感染への不安などにより強いストレスを感じる人や心を病む人、ひきこもり者等が増えていることから心の健康づくりを推進する必要があります。	地域に密着した質の高い、また専門性の高い保健衛生事業が提供され、だれもが健やかに安心して暮らしている。	【作業部会の意見】 ・切れ目のない子どもから大人までの相談・支援体制の確立した社会 ・ひきこもり(家族も)の居場所があるまち ・人的資源のロス(がんによる死亡、ひきこもり、不登校)をなくす	【企画課からの提案】 新型コロナの関係で、新たな感染症に対する体制整備により、安心して暮らせる社会という視点からの表現はどうでしょうか。	【⑦について】 感染症対策について加えることは必要だと思いますが、こころの健康については、ひきこもり問題だけを特別に出す必要はないと思います。(こころの健康は、自殺対策、うつ、アルコール関連問題等々あり、どれも大切なことです。)	● <u>感染症の流行に備えた体制が整備され、地域に密着した専門性の高い保健衛生事業の提供により、だれもが健やかに安心・安全に暮らしている。</u>	健康課
				3	地域医療体制の充実	日曜・祝日や夜間における市民の救急需要に応えるため、救急医療体制の充実・強化が必要です。	【企画課からの提案】 ・新型コロナウイルスの感染拡大による医療機関の受入体制等に課題はあるのでしょうか。 ・後期基本計画の作成方針にITの活用とあり、遠隔診療等のITの活用について触れることは可能でしょうか。 ・医師・看護師不足の問題が全国的に言われていますが、長野市の課題として触れるのはどうでしょうか。 ・中山間地の医療の課題等はないのでしょうか(患者の減少、医療従事者の不足、採算性の問題等)。	【②について】 企画課からの提案内容は、以下の理由により具体的な記載はしない。 ・医療提供体制(医師・看護師の確保を含む)については、より広域的に考慮すべき課題であり、医療法に基づき県が主体となり整備するものであるため ・遠隔診療等のITの活用が見込まれる国保診療所については、計画期間中は現行の診療体制を継続する方針が決定しているため。	● <u>医療機関の診療時間外における救急患者を確実に受け入れるため、医療提供体制の確保</u> が必要です。	必要な人が必要な時に必要とする医療サービスを安心して受けている。	【事務局】 ・受診のための移動が困難な人については、福祉の移動サービス等との連携により受診ができるようにする	【企画課からの提案】 「必要な人」は市外の人もいるので「市民」ではなく、この表現なのでしょうか？例えば「必要な人」→「誰もが」、「必要とする医療」→「適切な医療」と置き換えるのはどうでしょうか。	【⑦について】 企画課からの提案を反映させる。  <u>だれもが必要とする時に、適切な医療サービスを受けている。</u>	医療連携推進課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(保健・福祉分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課			
2	保健・福祉	5	人権を尊ぶ明るい社会の形成	1	人権尊重社会の実現	同和問題をはじめとする差別、いじめ、虐待、性犯罪、暴力、ハラスメントなどにより、人間としての尊厳を傷つけられている人がいます。また、近年、インターネットによる人権侵害などの新たな人権問題が発生していることから、市民一人ひとりが人権尊重の意義や様々な人権問題についての理解と認識を深める必要があります。	【作業部会の意見】 【多様性の尊重】 ・みんな同じ一人の人間だという感覚が欲しい(a) ・世代間ギャップを埋める。お互いを知る必要がある(b) ・世代間の意見が聞き入れられない(c) ・人口増、結婚率UP、出生率Upが固定観念になっている(d)  【企画課からの提案】 ・作業部会では「多様性の尊重」が重要視されました。「多様性」の文言を入れていただくことは可能でしょうか。(e) ・「目指す状態 ⑦作業部会の意見」欄にも記載していますが、最近取り上げられるようになったLGBT(多様な性)に触れることは可能でしょうか。(f) ・「インターネットによる人権侵害」は、もはや「新たな人権問題」ではないと思われそうですが、どうなのでしょう。(g)	「セクシャルマイノリティへの偏見など」と踏み込んだ表現となっているが、いかがなものか(唐突に感じられる)	【②について】 ・作業部会の意見(a)は、その旨が現行の「市民一人ひとりが人権尊重の意義や様々な人権問題についての理解と認識を深めることが必要です。」に含まれているため、特に記載は変えない。 ・作業部会の意見内(b)(c)は、この施策の分野には当てはまらないため、反映させない。 ・作業部会の意見内(d)は、多様性の反対である画一的な固定概念であり具体的な事項であるため、現状と課題ではなく、施策実施時に反映するよう検討する。 ・企画課からの提案(e)は、その旨が修正後に含まれている。 ・企画課からの提案(f)(g)の意見を反映させる。  【③について】 担当課と調整中	同和問題をはじめとする差別、いじめ、虐待、性犯罪、暴力、ハラスメントによる人権侵害などにより、人間としての尊厳を傷つけられている人がいます。また、セクシャルマイノリティへの偏見など、生きづらさを感じている人もいます。市民一人ひとりが人権尊重の意義や様々な人権問題についての理解と認識を深める必要があります。	市民一人ひとりが、生涯にわたり自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権を尊重している。	【作業部会の意見】 ・みんなの笑顔があふれる地域づくり(a) ・個性と能力が十分に発揮できる社会(女性、男性、高齢者、障がい者、LGBT)(b) ・多様な性(LGBTの尊重)を認め合う(c) ・「長野らしい」生き方＝自分らしい”生き方”(d) ・外国籍の方へのケアの充実(e) ・女性、若者、外国の方、障がい者など様々な方が参画できる社会(f) ・世代間のコーディネーターができる人が大勢いる社会(g)  【企画課からの提案】 「現況と課題」と同様に、「多様性を認め合う」、「多様性を受け入れる」といった「多様性」の文言を入れることは可能でしょうか。(h)	・「多様」には、ひとり親、外国籍、障害、同性婚、事実婚・内縁などがあると思うが、子育て支援施策にキーワードとして入れることは馴染まないのではないか)はもつともであるが、同性婚、事実婚、ジェンダーフリーは、どのあたりに反映されているのか。	【⑦について】 ・作業部会の意見内(a)(g)は、この施策の分野には当てはまらないため、反映させない。 ・作業部会の意見内(b)(c)(e)(f)は、具体的な事項であるため、目指す状態ではなく、主な取組に反映できるか検討する。 ・作業部会の意見内(d)は、多様性の反対である画一的な固定概念であるため、反映させない。 ・企画課からの提案(h)は、その旨が現行の「他の人の大切さを認め」に含まれているため、特に記載は変えない。  【⑧について】 同性婚、事実婚は具体的な事項であるため、主な取組に反映にできるか検討する。	市民一人ひとりが、生涯にわたり自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権を尊重している。	人権・男女共同参画課
				2	男女共同参画社会の実現	性別による固定的な役割分担の意識が根強く残っていることから、意識改革のための取組を推進するとともに、女性が参画しやすい社会環境を整備する必要があります。	【作業部会の意見】 ・色々決めている所(行政等)は男性社会？ 女性の意見はどう反映されるのか？ ・若い女性がモデルとする活躍している女性が少ない  【企画課からの提案】 「男女が共に充実した生活を送ることができる～」を「男女が共に活躍できる」といった「活躍」を入れるのはどうでしょうか。	性別による固定的な役割分担の意識が根強く残っていることから、意識改革のための取組を推進するとともに、男女が共に活躍できる社会環境を整備する必要があります。	性別による固定的な役割分担の意識が根強く残っていることから、意識改革のための取組を推進するとともに、男女が共に活躍できる社会環境を整備する必要があります。	男女が社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮し、自らの意思により社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保されている。	【作業部会の意見】 ・女性がもっと活躍している社会 ・(男女)半々で活躍する社会(女性もちゃんと手を挙げて) ・女性の経営者が発信する社会を  【企画課からの提案】 「参画」だけではなく「活躍」を入れるとより積極性が増すと思われすが、いかがでしょうか。	・「多様」には、ひとり親、外国籍、障害、同性婚、事実婚・内縁などがあると思うが、子育て支援施策にキーワードとして入れることは馴染まないのではないか)はもつともであるが、同性婚、事実婚、ジェンダーフリーは、どのあたりに反映されているのか。	【⑦について】 ・作業部会の意見は、具体的に取り組むべき事項であることから、現況と課題ではなく、主な取組への反映を検討する。 ・企画課からの提案を取り入れる。  【⑧について】 ジェンダーフリーについては、⑩の目指す状態に包含されているため、特に修正しない。	男女が社会の対等な構成員として個性と能力を十分に発揮し、自らの意思により社会のあらゆる分野で活躍する機会が確保されている。	人権・男女共同参画課	

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(環境分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
3 環境	環境に負荷を かけない持続 可能な社会の 形成	1 低炭素社会 の実現	地球温暖化の影響が顕在化中、その要因とされる温室効果ガスを削減するためには、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が有効です。市域の約6割を占める森林には森林資源が豊富に存在するものの、間伐材等の木材や燃料としての利用が約4割に留まっていることから、地域固有の木質バイオマスエネルギー資源として活用を促進する必要があります。	【作業部会の意見】 ・環境に配慮した事業所・住宅が少ない ・ペレットストーブに関する情報が少ない ・薪を切り出す人材の不足 ・国産ペレットが高額 ・幼少期から環境教育に取り組むための制度的なカリキュラムがない ・温暖化対策を実施しても地球温暖化・異常気象が改善されていない  【事務局意見】 ・2050年カーボンニュートラルに向けた取組の必要性  【企画課からの提案】 地球温暖化による市民生活等の影響が顕在化する中、SDGs及び2050年までのカーボンニュートラル達成が強く求められています。気候変動緩和策として、温室効果ガスの排出削減のため、有効な再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギー消費の効率化などを推進するほか、森林資源が豊富な地域特性を生かした地域固有の木質バイオマスエネルギーの活用を促進する必要があります。また、進行する気候変動への適応策として、影響軽減や早期警戒に関する教育や啓発などの対策の重要性が高まっています。		【②について】 ・作業部会及び事務局での意見は、具体的な課題であるため、主な取組に反映できるか検討する。	地球温暖化による市民生活等の影響が顕在化する中、SDGsの達成や2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする取組が強く求められています。気候変動の緩和策としては、温室効果ガスの排出削減のため、有効な再生可能エネルギーの普及拡大やエネルギー消費の効率化などを推進するほか、森林資源が豊富な地域特性を生かした地域固有の木質バイオマスエネルギーの活用を促進する必要があります。また、進行する気候変動への適応策として、影響軽減や早期警戒に関する教育や啓発などの対策の重要性が高まっています。	温室効果ガスの排出削減を意識した日常生活や事業活動が営まれ、排出量が年々減少している。	【作業部会の意見】 ・気温上昇の抑制 ・異常気象の改善 ・一人一人が環境に対して高い意識を持っている  【企画課からの提案】 SDGsや温室効果ガス排出削減を意識した日常生活・事業活動が営まれ、排出量が年々減少している。		【⑦について】 ・作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変更しない。 ・企画課からの提案にある「SDGs」を反映させる。  →2/1 企画課にて協議のうえ、SDGsの文言はすべての施策に関連するものであるため個別の施策には入れないこととした。	温室効果ガスの排出削減を意識した日常生活や事業活動が営まれ、排出量が年々減少している。	環境保全温暖化対策課
		2 循環型社会 の実現	家庭ごみ処理有料化制度等の導入や地域における資源回収の定着により、ごみの総排出量は減少傾向ですが、事業所からのごみの排出量が増加傾向であることから、事業所に対する啓発・指導を強化する必要があります。また、本市や周辺自治体においてごみ焼却施設が老朽化しており、市町村ごとに対応した場合、維持費の増大や事業効率の低下が見込まれることから、関係市町村が連携して広域的なごみ処理体制を構築する必要があります。	【作業部会の意見】 ・事業ごみが減らない ・飲食店などからの食品残渣が減らない ・食品ロスに対する政府の考え方が統一されていない(厚労省・環境省) ・可燃ごみの排出量が海外と比較して多い ・商品の過剰包装 ・幼少期から環境教育に取り組むための制度的なカリキュラムがない ・コロナ禍で活動に制限がある  【事務局意見】 ・プラスチック資源循環の高度化  【企画課からの提案】 ・家庭ごみ処理有料制度等の導入や地域における資源回収の定着により、ごみの総排出量は減少傾向ですが、事業所からのごみの排出量が横ばいであることから、事業所に対する啓発・指導を強化する必要があります。  ・長野広域連合が策定したごみ処理広域化基本計画に基づき整備した3施設を活用し、広域での効率的なごみ処理体制構築に取り組む必要があります。	長野市は市街化が進んでおり、近年高層マンションも増えてきている。都市部のごみの量は多いと推測され、東京都のような都市の施策に学ぶべき点がある。東京都ではごみの自家処理機が普及しており、都では費用の5割を補助している。これが、マンションを多く持っている都市の現状であり、長野市もそういった取り組みについて真剣に考える必要がある。	【②企画課からの提案について】 ・広域での効率的なごみ処理体制を構築する主体は長野広域連合であり、長野市は構成市町村の一員としてそれに協力していく必要があると考える。  【③作業部会の意見について】 既存の制度を広く普及させるため、制度の一部を改訂するなどしている。主な取組みに反映できるか検討していく。	・家庭ごみ処理有料制度等の導入や地域における資源回収の定着により、ごみの総排出量は減少傾向ですが、事業所からのごみの排出量が横ばいであることから、事業所に対する啓発・指導を強化する必要があります。  ・長野広域連合が進める広域での効率的なごみ処理体制の構築に、構成市町村の一員として協力していく必要があります。	市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。	【作業部会の意見】 ・ごみの大幅な減少 ・エシカル消費の普及 ・食品ロスの少ないまち  【企画課からの提案】 市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。		市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。	生活環境課	

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(環境分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課	
3	環境	2 自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進	1 豊かな自然環境の保全	<p>妙高戸隠連山国立公園をはじめ、数多くある魅力的な自然を守るため、市民・地域・事業者・行政が一体となって環境保全活動に取り組んできました。この活動が更に広がるよう、市民一人ひとりが自然と親しみながら理解と関心を深め、多様な担い手による環境保全活動を促進する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が地元の自然環境の良さを知らない</li> <li>・山林の手入れがされていない</li> <li>・自然をテーマにしたブランドイメージが低い</li> <li>・自然と接する機会が少ない</li> <li>・自然利用のレジャー施設が少ない</li> <li>・巣ごもりをする高齢者の増加</li> <li>・マルチハビテーションの可能性</li> <li>・外来種の増加</li> <li>・コンクリート水路の影響でメダカやホタルが減少</li> <li>・天然河川の減少</li> <li>・多発する災害で、自然に影響</li> <li>・幼少期から環境教育に取り組むための制度的なカリキュラムがない</li> <li>・コロナ禍で活動に制限がある</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を守るため保全活動に取り組んでいるものの、希少動植物の減少、気候変動による植生の変化などにより市内の豊かな自然の喪失が危惧されています。</li> <li>・自然環境保全に対する理解と関心を幼少期からの教育を通じて更に高めるとともに、生物多様性の保全活動などを、市民、事業者、行政が協働して取り組み、環境と共生する持続可能な社会へとつなげていく必要があります。</li> </ul>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が地元の自然環境の良さを知らない</li> <li>・山林の手入れがされていない</li> <li>・自然をテーマにしたブランドイメージが低い</li> <li>・自然と接する機会が少ない</li> <li>・自然利用のレジャー施設が少ない</li> <li>・巣ごもりをする高齢者の増加</li> <li>・マルチハビテーションの可能性</li> <li>・外来種の増加</li> <li>・コンクリート水路の影響でメダカやホタルが減少</li> <li>・天然河川の減少</li> <li>・多発する災害で、自然に影響</li> <li>・幼少期から環境教育に取り組むための制度的なカリキュラムがない</li> <li>・コロナ禍で活動に制限がある</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を守るため保全活動に取り組んでいるものの、希少動植物の減少、気候変動による植生の変化などにより市内の豊かな自然の喪失が危惧されています。</li> <li>・自然環境保全に対する理解と関心を幼少期からの教育を通じて更に高めるとともに、生物多様性の保全活動などを、市民、事業者、行政が協働して取り組み、環境と共生する持続可能な社会へとつなげていく必要があります。</li> </ul>		<p>・企画課からの提案を反映させるが、環境教育や情報発信は全世代を対象とする必要があるため、特定の世代ではなく幅広い世代を対象とする表現に改める。</p>	<p>・豊かな自然を守るため保全活動に取り組んでいるものの、希少動植物の減少、気候変動による植生の変化などが危惧されています。</p> <p>・教育や情報発信を通じて自然環境保全に対する理解と関心を更に高めるとともに、生物多様性の保全活動などを、市民、事業者、行政が協働して取り組み、環境と共生する持続可能な社会へとつなげていく必要があります。</p>	<p>豊かな自然環境が保たれ、自然と触れ合うことができる。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・恵まれた自然環境を活かし、旅行に行かなくてもレジャーが楽しめるまちづくり</li> <li>・生き物がいっぱい</li> <li>・生き物も人も住みやすいまち</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然環境や固有の生物多様性が保たれ、自然と触れ合うことができる。</li> </ul>		<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画課からの提案にある「固有の生物多様性」を反映させる。</li> </ul>	<p>豊かな自然環境や固有の生物多様性が保たれ、自然と触れ合うことができる。</p>	環境保全温暖化対策課
		2 良好な生活環境の保全	<p>心地よい暮らしの基盤となる爽やかな空気やきれいな水、清潔なまちなみなど、生活環境は概ね良好に保たれているものの、ごみのポイ捨てや不法投棄が後を絶たないことから、地域や事業者等の環境美化活動を促進するとともに、捨てられにくい環境づくりを推進する必要があります。</p> <p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨てごみが減らない</li> <li>・街中にゴミ箱がない</li> <li>・幼少期から環境教育に取り組むための制度的なカリキュラムがない</li> </ul> <p>【事務局意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境美化に対する関係者の意識をさらに高める必要がある</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔なまちなみなど生活環境は概ね良好に保たれているものの、ごみのポイ捨てや不法投棄があとを絶たないことから、環境美化に対する関係者の意識を高め、地域や事業者等の環境美化活動の促進を行うとともに、捨てられにくい環境づくりを推進する必要があります。</li> </ul>		<p>企画課の提案を反映させる。</p>	<p>清潔なまちなみなど生活環境は概ね良好に保たれているものの、ごみのポイ捨てや不法投棄があとを絶たないことから、環境美化に対する関係者の意識を高め、地域や事業者等の環境美化活動の促進を行うとともに、捨てられにくい環境づくりを推進する必要があります。</p>	<p>良好な生活環境が美しく保たれている。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨て等のないキレイなまち</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・良好な生活環境が美しく保たれている。</li> </ul>			<p>良好な生活環境が美しく保たれている。</p>	生活環境課		

第五次長野市総合計画基本計画 現況と課題及び目指す状態(防災・安全分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
4 防災・安全	1 災害に強いまちづくりの推進	1 防災・減災対策の推進	<p>自主防災組織の結成率は100%に達しているものの、災害発生時に被害を最小限に抑制するため、地域の状況に応じた地域防災マップの作成や防災訓練の実施が進むよう積極的に支援していく必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災への意識が薄いため、災害時にどう行動が必要なのかが十分に理解されていない。</li> <li>・東日本台風災害時にどうせ今回も大丈夫だろうという危機への認識の低さからギリギリまで避難しない人が多かった(長沼地区等)</li> <li>・実際に災害を経験し、安否確認や見回りなど、災害時における近所の人との関りの大切さを見直すきっかけとなった。</li> <li>・実際に災害を経験し、防災意識の高揚に繋がった。</li> <li>・防災マップ等の配布を行ってはいないが、内容が各自の頭に入っていない。(いざという時に役に立たない)</li> <li>・都市部等において、地域防災計画が進んでいない。</li> <li>・各地区ごとのまちづくり・防災計画等が必要。</li> <li>・いろいろな計画があるが、周りに周知されていないため認識に乏しい。</li> <li>・過去の災害に関する歴史的資料や情報が無いため、教訓を活かした対応策がとれない。</li> <li>・学校教育での防災教育の強化が必要。</li> <li>・防災無線が聞こえづらい。</li> </ul> <p>【事務局意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・河川氾濫・堤防決壊等による洪水被害を想定し、洪水一時避難場所などの避難施設、避難路の整備、洪水避難訓練等の災害対策が必要。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の結成率は100%に達しているものの、災害の教訓を活かし自然災害等に対する適応力や個々の防災意識を強化する必要があります。</li> <li>・被害を最小限に抑制するため、地域の状況に応じた地域防災マップの作成や防災計画等の周知、また感染症対策を徹底し実効性のある防災訓練の実施が進むよう積極的に支援していく必要があります。</li> <li>↑作業部会では、令和元年東日本台風災害を経験したことによる防災意識の醸成、地域での取り組みや自助・共助の重要性について意見が出されましたので、今後の課題の視点としてご検討ください。</li> </ul>			<p>【②について】</p> <p>作業部会からいただいた意見・対策等について、これらを包含した表記とした。</p>	<p>●令和元年東日本台風災害の教訓を活かし、<b>激甚化・頻発する災害に対して、一人一人が防災意識を高め、自助・共助(互助)・公助による防災体制を構築する必要があります。</b></p> <p>●自主防災組織の結成率は、100%に達しているものの、災害時の被害を最小限に抑制するため、地域の<b>実情</b>に応じた地域防災マップの作成や<b>感染症対策を徹底し実効性のある</b>防災訓練が進むよう、積極的に支援していく必要があります。</p>	<p>災害発生に備え、被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性・老人・子ども等の避難者へ考慮した災害備蓄品が揃っている。</li> <li>・自分の身が守れ、助けが必要な人を助けられるようになる</li> <li>・地域住民全員が助かる・全員で助ける(川や畑の様子を見に行く人を止める)</li> <li>・災害に強いまちー災害に向き合うまち(人間も自然の一部であり調和型の概念)</li> <li>・あらかじめ被災した際の復興イメージを地区で想定し、そこから地区防災計画の実質化を図る。(何かあった時に復興のイメージを作るのではなく、平時から何かあった時のことを想定して、この地域に何が大事でその後どう復興していくかを地域の中で考えておく。)</li> <li>・市街地の高齢者、障害者の防災対策を実質的なものにする。</li> <li>・一人一人の自衛の意識が高い。</li> <li>・幼少期から高い防災意識を持っている。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <p>災害発生に備え、個々の防災意識や災害弱者への地域の共助意識が高く、災害の教訓を活かした実質的な訓練が実施され、被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている。</p>	<p>【⑦について】</p> <p>作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。</p>	<p>災害発生に備え、被害を最小限に抑制できる体制や準備が整っている。</p>	危機管理防災課
		2 消防力の充実・強化及び火災予防	<p>●出火件数は概ね横ばい傾向にあり、たき火と放火(疑いを含む)が全体の3割を超えています。また、出火率が高いことから、市民への効果的な広報を実施するとともに、地域住民や消防団と連携し訓練等を通じて市民の防火意識を高める必要があります。</p> <p>●高齢化の進行に伴う救急需要の増大が見込まれるため、家庭内の事故やケガを防ぐよう予防救急を推進する必要があります。</p>	<p>【事務局意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団の高齢化に伴う担い手の不足</li> <li>・高齢単身世帯増加への対応</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出火件数は概ね横ばい傾向にありますが、たき火と放火が全体の約3割を超えています。そこで、ホームページなどを利用し、市民への効果的な広報を実施するとともに、地域住民や消防団と連携し各種行事等を通じて市民の防火意識の高揚や安定的な消防団員確保への対策を図る必要があります。</li> <li>・高齢化の進行に伴う救急需要が見込まれるため、家庭内の事故やケガを防ぐよう予防救急を推進する必要があります。</li> </ul>		<p>【②について】</p> <p>事務局意見の「消防団の高齢化に伴う担い手の不足」について、一部の地域は担い手不足による高齢化傾向であると認識している。また、企画課からの提案の「安定的な消防団確保への対策」については、主な取り組みに反映できるか検討する。</p> <p>・事務局意見の「高齢単身世帯増加への対応」について、火災予防の観点からは、出火危険及び「逃げ遅れ」の増加が懸念されるため、主な取り組みに反映できるか検討する。また、救急の観点から、高齢化の進行による救急需要が見込まれるという点で、現行のものに含まれていると考える。搬送人員の高齢者の割合が増加していることから、高齢者に対する予防救急の取り組みが必要であるため、主な取り組みに反映できるか検討する。</p>	<p>●出火件数は概ね横ばい傾向にありますが、<b>出火原因は、たき火と放火が全体の約3割を超えています。</b>地域住民や消防団と連携し各種行事等を通じ、<b>地域に密着した効果的な広報を実施することにより</b>、市民の防火意識の高揚を図る必要があります。</p> <p>●高齢化の進行に伴う<b>高齢者の救急需要の増加</b>が見込まれます。家庭内の事故やケガを防ぐよう予防救急を推進する必要があります。</p>	<p>市民の防火意識が高く、消防・救急・救助体制の充実により市民の生命・財産が守られている。</p>	<p>【企画課からの提案】</p> <p>市民の防火意識が高く、地域コミュニティの共助による消防・救急・救助体制の充実により市民の生命・財産が守られている。</p>	<p>【⑦について】</p> <p>企画課からの提案の提案について、「消防・救急・救助体制の充実」は消防団の体制を示しているため、この場合の表記としては適切ではないが、「地域コミュニティの共助」を通じて防火意識(防災意識)の向上を図ることは有用である主な取り組みとして反映できるか検討する。</p>	<p>市民の防火意識が高く、消防・救急・救助体制の充実により市民の生命・財産が守られている。</p>	消防局総務課	

第五次長野市総合計画基本計画 現況と課題及び目指す状態(防災・安全分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
4 防災・安全	2 安心して暮らせる安全社会の構築	1 交通安全対策の推進	交通事故発生件数は減少傾向にあるものの、高齢者の事故は依然として多く、交通関係機関や団体との協議を継続しながら、更に対策を進める必要があります。	【作業部会の意見】 ・長野県は横断歩道での車の一時停止率が全国1位であることをアピールして、長野から全国へ波及させる必要がある。 ・高齢者ドライバーは依然として増加しており、交通事故の備えがより一層必要である。 ・ヘルメットを着用しない自転車利用者が多い。  【事務局意見】 ・コロナ禍でテイクアウト需要が高まり、飲食等のデリバリー増加による軽車両の交通事故の増加が見込まれる。 ・山間地での安協消滅や、存続危機により活動が継続できない。  【企画課からの提案】 交通事故発生件数は年々減少傾向にあるものの、高齢者が係る死亡事故の割合が高止まり状態(約60%)で推移している状況にあります。運転者と歩行者の両方に加齢を伴う身体機能の変化を自覚してもらうための、参加・体験型の安全教育への参画や、運転に不安を感じるドライバーへの運転免許返納の促進、サポカーへの乗り換えを促すための購入補助制度の周知、自転車の交通安全啓発の強化などを実施する必要があります。  ↑令和元年度時点での長野県の自転車の交通事故件数は減少傾向にあるようですが、今後の課題の一つとして懸念事項があればご検討ください。(企画課)		【②について】 【作業部会の意見】 ・「長野県は横断歩道での車の一時停止率が全国1位であることをアピールして、長野から全国へ波及させる必要がある。」 →市町村のみではなく、県全体としてアピールすべきものと考え、反映しない。 ・「高齢者ドライバーは依然として増加しており、交通事故の備えがより一層必要である。」 →今後の高齢化社会を見据えた場合、運転者と歩行者を含めた高齢者全体として備えるべきものと考え、反映しない。 ・「ヘルメットを着用しない自転車利用者が多い。」との意見 →ヘルメットの着用率の向上と自転車事故の減少率は必ずしも比例しないと考え、反映しない。 【事務局意見】 ・「コロナ禍でテイクアウト需要が高まり、飲食等のデリバリー増加による軽車両の交通事故の増加が見込まれる。」 →反映させる。 ・「山間地での安協消滅や、存続危機により活動が継続できない。」 →組織の存亡と事故減少とは、直接関係しないと考える。対応策については別途検討したい。  【企画課から提案】 ・「自転車」に関する提案について反映させる。	●高齢者に係る死亡事故の割合が高止まり状態(約60%)で推移している状況にありますので、より一層対策を進める必要があります。  ●自転車のルール違反を原因とする交通事故が、全自転車事故の半数以上を占めており、交通ルールの周知やマナーの向上を図る必要があります。	市民が交通事故の被害者・加害者になることなく、安全に安心して生活している。	【作業部会の意見】 ・車と歩行者がともに安全なまち(意識の向上) ・交通事故ゼロのまちにする ・公共交通機関の活用を見直し、必要な人にきめ細かい運用をする ・公共交通の利用しやすいまち  【企画課からの提案】 市民の交通安全意識の高さを維持し、交通事故の被害者・加害者になることなく、安全に安心して生活している。		【⑦について】 【作業部会の意見】 ・「車と歩行者がともに安全なまち」、「交通事故ゼロのまちにする」は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。  ・「公共交通機関の活用を見直し、必要な人にきめ細かい運用をする」は、この施策分野には当てはまらないため、反映しない。(7都市整備分野政策2拠点をつなぐネットワークの充実に該当)  ・企画課からの提案は、主な取組の1つとして実施していきたい。	市民が交通事故の被害者・加害者になることなく、安全に安心して生活している。	地域活動支援課
		2 防犯対策の推進	刑法犯発生件数は減少傾向にあるものの、身近な犯罪である窃盗が約8割を占めており、地域における防犯活動を維持するとともに、防犯協会連合会等の関係団体により連携を強めた活動を実施する必要があります。	【事務局意見】 ・レジ袋有料化により、マイバッグを使った万引きなどが増加。 ・コロナ禍における経済状況の悪化による犯罪増加。  【企画課からの提案】 刑法犯発生件数は年々減少傾向にあるものの、市民に身近な犯罪(乗り物盗、万引き)や、不安に感じる事象(子供や女性を対象とする声かけ事案など)が依然として発生している現状にあります。これらの被害に遭わないため、防犯協会等の関係団体と連携を密にした、自主防犯活動を更に推進する必要があります。  ↑経済状況の悪化等による社会情勢の変化により、犯罪増加が懸念されるようなことがあれば視点の一つとしてご検討ください(企画課)		【②について】 【事務局意見】 ・「レジ袋有料化により、マイバッグを使った万引きなどが増加。」 ・「コロナ禍における経済状況の悪化による犯罪増加。」 →令和2年10月末時点での刑法犯認知件数は減少傾向にあるが、今後増加が予想される犯罪手口は、現時点では推測することが困難と考え、反映しない。  【企画課からの提案】 同上の理由から、現時点では反映しない。	刑法犯発生件数は年々減少傾向にあるものの、市民に身近な犯罪(乗り物盗、万引き)や、不安に感じる事象(子供や女性を対象とする声かけ事案など)が依然として発生している現状にあります。これらの被害に遭わないため、防犯協会等の関係団体と連携を密にした、自主防犯活動を更に推進する必要があります。	市民の防犯意識が高く犯罪被害に遭うことなく、安全に安心して生活している。	【企画課からの提案】 市民の防犯意識が高く、自主防犯活動に地域で取り組み犯罪被害に遭うことなく、安全に安心して生活している。		【⑦について】 ・企画課からの提案については、具体的な事項であるため、主な取組に反映できるか検討したい。	市民の防犯意識が高く犯罪被害に遭うことなく、安全に安心して生活している。	地域活動支援課

第五次長野市総合計画基本計画 現況と課題及び目指す状態(防災・安全分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
4	防災・安全	2 安心して暮らせる安全社会の構築 3 安全な消費生活の確保	<p>●消費生活相談件数は減少傾向であるにもかかわらず、通信販売(インターネット等)に関する被害件数は横ばいで推移していることから、消費生活に関する情報提供などにより対策を講じる必要があります。</p> <p>●特殊詐欺の認知件数が増加しているため、関係団体や地域の関係者との連携による対策の必要性が高まっています。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・新型コロナウイルスによる外出自粛の影響で家族と過ごす時間が多くなり、会話も増えることで意識の醸成や被害の抑制につながった。</p> <p>【事務局意見】 ・新型コロナウイルス詐欺への注意喚起</p> <p>【企画課からの提案】 ・悪質商法や特殊詐欺は常に新たな手口が発生し、巧妙化しており、消費生活相談件数は年々増加しています。相談内容を見ると通信販売(インターネット等)に関する割合が、3割を占めています。広報媒体と出前講座を有効に活用し、被害手口を幅広く周知し、地域住民のロコミや家庭での啓発等により地道に意識の醸成を図ります。</p> <p>・特殊詐欺の認知件数は減少しているものの、関係団体や地域の関係者との連携による対策の必要性も高まっています。</p>		<p>【②について】 ・新型コロナ禍で地域の交流の場であった行事やイベントが制限され、巣ごもりによる余暇の時間が増え、通信販売(定期購入やネット通販)に関する相談(被害)が増加している。</p> <p>・特殊詐欺の認知件数と被害額は、県警が担当。件数は、年度で減少傾向ではあるが、今年10月末報告で23件 56,703千円、昨年同期と比較し、2件 20,779千円増加している。</p>	<p>●悪質商法や特殊詐欺は常に新たな手口が発生し、巧妙化しており、消費生活相談件数は年々増加している。</p> <p>●新型コロナウイルス禍で地域の交流の場であった行事やイベントが制限され、巣ごもりによる余暇の時間が増え、通信販売と訪問販売に関する相談(被害)が増加している。</p> <p>●広報媒体と出前講座(消費者教育)を有効に活用し被害手口を幅広く適時適切に周知し、地域住民のロコミや関係団体、地域の関係者との連携により地道に意識の醸成を図る。</p>	<p>市民の消費生活における健全な環境が確保され、安全で安心な暮らしを送っている。</p>	<p>【作業部会の意見】 ・特殊詐欺の減少を目指す</p> <p>【企画課からの提案】 関係団体や地域の関係者との強い連携により高齢者等が特殊詐欺から守られ、市民の消費生活における健全な環境が確保され、安全で安心な暮らしを送っている。</p> <p>↑特殊詐欺の認知件数が減少傾向にありますが、詐欺被害に遭っていることを自覚していない情報弱者等もいるかと思われ、そういった人々も犯罪から守るという視点で追記しました。目指す状態の一つとしてご検討ください。(企画課)</p>		<p>【⑦について】 ・特殊詐欺は、警察が担当し、啓発活動も各住民自治協議会の「安心・安全部会(防犯)」が、地域で活動を行っている。[地域活動支援課]</p> <p>・当センターでも出前講座を活用し、「悪質商法の手口と対応/特殊詐欺の被害に遭わないために」と題して、被害未然防止を地域と協働で消費者教育の普及を図っている。また、高齢者等を狙っている悪質商法の未然防止に「見守りネットワーク」を運用し、地域の見守り役の「民生児童委員」と協働で活動している。</p>	<p>関係団体や地域の関係者との強い連携により市民の消費生活における健全な環境が確保され、安全で安心な暮らしを送っている。</p>	市民窓口課

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
5	教育・文化	1	<p>乳幼児期から高等教育までの教育の充実</p> <p>●目標に向かって努力を継続できる力や自己をコントロールする力に秀でた児童・生徒が育っている一方で、知識・理解や思考力などの学力は、中学生になると全国平均を下回っています。また、体力は学年が上がるにつれて全国平均を下回る種目が多い傾向にあります。子どもの学力・体力だけでなく、意欲や態度などテストで計ることのできない資質や能力をバランスよく伸ばせるよう、更に教育を充実する必要があります。</p> <p>●国において小学校から中学校までの義務教育を行う「義務教育学校」が新設されたことなどから、今後の学校のあり方を含め、学校教育制度の多様化・弾力化を検討する必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的な自立ができる支援が少ない。</li> <li>【事務局補足】</li> <li>・将来の社会的・職業的な自立につながる取り組みについての意見です。</li> <li>・長野市に住む高校生が同じように学び、経験できるようにしてほしい。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学力、体力・運動能力について、現況と課題で触れられていますが、将来の自立に向けたキャリア教育、幼・保・小・中・高の連携等についても触れることはできるでしょうか。</li> <li>・作業部会委員から、高校生への支援に関する意見が出ています。市に関する高校は、市立長野高等学校のみですが、現況と課題に入れ込むことは可能でしょうか。</li> </ul>	<p>(高校生への支援について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施策に高等教育までの充実と書いてあるが、市として市立はわかるが、他はわからないという回答になっている。管轄下にはないことを重々承知しているが、例えば県と協力して等の記載はできるか。高校までと書いてあるのに高校はやらないのかというのは違和感がある。長野市では市立しかわかりませんという課題なのかもしれないが、何か反映させることはできるか。</li> <li>・一つは高校生に対する支援で経済的な支援といったアプローチがあれば、同じ市内で住んでいる高校生と横串できるような学びの機会を提供する視点があるのではないかと。市独自にやるといふ形でもNPOと連携しながら探求的な学びや課外活動の支援について検討いただきたい。</li> </ul> <p>(文言について)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文言について、近年の学習指導要領に沿っていくと、「主体的・対話的で深い学び」という表記がある。そこで使われる文言が「探求的な学習、探求的な学び」といった表現が使われることがあり、もし可能であれば、「主体的に追及」を「主体的に探求」に変えれば、昨今の学習指導要領を踏まえたものになり、このキーワードに着目しながら探求的な学びを提供するような横串の高校生の支援という形ができるのではないかと。</li> </ul>	<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市立長野高等学校に限定する場合であれば、現況と課題に入れ込むことは可能であるが、長野市に住む高校生全体に向けた支援となると入れ込むことが難しい。</li> <li>・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が子どもの「知・徳・体」をバランスよく育む重要な要素と考えており、この2つの学びの実現が、しなのきプランの目指す人間像「グローバルな視野を持ちながら、ローカルにたくましく生きる自立した18才」に向かうものと考えている。</li> </ul> <p>【③について】</p> <p>(高校生への支援について)</p> <p>現在、長野県NPOセンターにおいて、若者が活躍するユースリーチ活動を展開しており、学校を限定せず様々な高校生が集まってボランティアを含めた活動をしている。本市ではこうした活動を高校生に紹介し、参加を促している。また、市立長野高校では課題探究学習の成果を市内県立高校、および長野高専と共有し、連携を深めている。</p> <p>(文言について)</p> <p>意見を踏まえ、文言に反映させる。</p>	<p>●学力は中学生になると全国平均を下回る状況が続きましたが、諸調査等の結果に基づく指導改善の取り組み等により、全国平均と同等になっており、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、全ての児童生徒が適切かつ効果的な学習成果が得られるよう、家庭・地域・事業所等と協働しながら、個別最適な学び・協働的な学びの実現に向け取り組む必要があります。また体力は、男子は全国平均を上回る種目が多い傾向にあり、女子は全国平均を下回る種目が多い傾向にあります。体力の向上について、多様な特性を持つ児童生徒や運動に親しめていない児童生徒が日常的に運動できる環境を整備する必要があります。</p> <p>●平成30年6月に、長野市活力ある学校づくり検討委員会から示された「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方」(答申)に沿った活力ある学校づくりを推進していく必要があります。</p>	<p>子どもが社会でたくましく生きていくために必要な学力・体力を身に付け、人間性豊かに成長している。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・機械的な人ではなく、自分の意見をしっかり持てる子どもになる。</li> <li>・先生がまとめる学校ではなく、先生も子どもも主体となる学校</li> <li>・多様性を受け入れられる人作り</li> <li>・仕事をしたい、仕事が楽しそうと子ども達が思える環境</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達がクラブ活動を楽しめる</li> <li>・部活より地域のサークルで活動する。</li> <li>・大学生・高校生がもっと小学生に関わる環境・学習機会作り</li> <li>・教育にあまりお金がかからない環境</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に判断する力や、他者との関係を築いていく力等について、目指す状態で触れることはできるでしょうか。</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期しなのきプランでは、主体的に追究する力や協働的な学びを進める計画を立てていますので、右のとおりとした。</li> </ul>	<p>子どもが社会でたくましく生きていくために、主体的に探究したり、協働的に学んだりしながら、必要な学力・体力を身に付け、人間性豊かに成長している。</p>	学校教育課	

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
		子どもに応じた支援の充実	学校評価アンケートによると、児童・生徒の8割以上が学校は楽しく安心できる場所だと感じている一方で、不登校児童・生徒の在籍比は全国や県と比べると高い状態が続いています。引き続き、関係機関との連携を強化して、不登校やいじめの未然防止などの対策を講じる必要があります。	【作業部会の意見】 ・長野市の学校の不登校の実態がわからない。 ・不登校対策では、それぞれに合った支援と言いつながりながら「通信制」高校の情報提供がされないことが変である。(復学率) ・本校が長野市にない通信制高校の場合、長野市の子なのに大会のチラシが来ないので大会に出られない。 ・不登校の子の学校卒業時に、ひきこもり支援に繋げる。  【企画課からの提案】 ・中学から高校、高校卒業後の支援のつながりについて触れることはできるでしょうか。 ・特別支援教育に関する指標がないため、現況と課題で触れることは難しいと思いますが、不登校、いじめと共に障害のある子どもへの支援についても触れることはできるでしょうか。		【②について】 ・不登校の実態については、毎年国の調査依頼があり、基本計画の「現況と課題」に小・中学生別の在籍率を、国・県の数値とともにグラフ化していますので、ご覧いただきたい。 ・高校については、県教育委員会の管轄になり、復学率については把握できない。 ・特別支援教育については、成果指標を数字として出すことが困難であり、現況と課題で具体的に触れることは難しいが、提案をふまえて右のとおりとした。 ・卒業時には、進路先の調査を行い、必要であれば、部局と連携している。	市の不登校児童・生徒の在籍率は国・県同様、年々増加傾向にあります。学校に登校することだけをよしとするのではなく、一人ひとりの子どもたちに応じて、適切な支援を継続して行っていく必要があります。引き続き、SDGsの理念である「誰一人取り残さない」という視点をもち、関係機関との連携を強化して、不登校やいじめの未然防止、様々な特性をもった子どもへの対策とともに、一人ひとりの子どもが社会的自立ができるよう対策を講じる必要があります。	不登校やいじめに悩む子ども、障害のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、子どもに応じた適切な支援の下、安心して学習に取り組んでいる。	【作業部会の意見】 ・子ども達が安全に生活ができる学校生活  ・不登校となる全ての子どもの居場所(フリースクールを含む)と行政の連携を推進する。 ・ひきこもり(家族も)の居場所があるまち  【企画課からの提案】 ・子どもだけでなく、家族も含めた支援についての記載はできるでしょうか。	【⑦について】 ・第3期しなのきプランでは、安心安全という項目で計画を立てていますので、右のとおりとした。 ・学校以外の居場所との連携について右のとおりとした。 ・居場所を含め、家庭の支援も含むことをふまえて右のとおりとした。	不登校やいじめに悩む子ども、様々な特性のある子ども、社会的援助を必要とする子どもなど、子どもに応じた適切な支援の下、外部機関と連携し、一人ひとりに合わせて安心して学習に取り組んでいる。	学校教育課	
	未来を切り拓く人材の育成と環境の整備	家庭・地域・学校の相互連携による教育力向上	全国学力・学習状況調査の質問項目で「家の人と学校での出来事について話をしている」と回答した児童・生徒の割合は全国平均とほぼ同じです。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した割合は全国と比べて大きく上回っています。引き続き、子どもを健やかに育むために、学びや育ちを支えていく必要があります。	【作業部会の意見】 ・市内の他地区からの転居が多く、その地区のことを学ぶ機会が少ない(親が知らない)ので、子ども知らない。  【事務局】 ・家庭の教育力が低下している。家庭によって差がある。 ・子どもが地域で安全に遊べる環境が整っていない。  【企画課からの提案】 ・家庭・地域が連携して子どもの学びや育ちを支えていくという視点は入れられるでしょうか。 ・あらゆる世代がつながる地域像に触れることはできるでしょうか。 ・親も子どもも共に学び、地域の活動に参加していくという点に触れることはできるでしょうか。		【②について】 作業部会と企画課の意見・提案の趣旨は、その旨が現行のものに含まれているが、本文中「家庭・地域・学校の相互連携により」を追加する。	全国学力・学習状況調査の質問項目で「家の人と学校での出来事について話をしている」と回答した児童・生徒の割合は全国平均とほぼ同じです。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した割合は全国と比べて大きく上回っています。引き続き、子どもを健やかに育むために、家庭・地域・学校の相互連携により、学びや育ちを支えていく必要があります。	家庭・地域・学校が相互連携により教育力を向上し、子どもの学びや育ちを支えている。	【作業部会の意見】 ・教育にあまりお金がかからない環境  ・若者と地域をつなぐ →若者も地域の担い手に ・若者の居場所(NPOとの共同) →長野のイメージアップになる  【企画課からの提案】 ・地域の育成会等が主体となり、子どもの学びや育ちを支える、地域を見守っていくという視点は入れられるでしょうか。 ・地域の中の学校、地域として子どもを支えていくという視点は入れられるでしょうか。	【⑦について】 作業部会と企画課の意見・提案内容は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。	家庭・地域・学校が相互連携により教育力を向上し、子どもの学びや育ちを支えている。	家庭・地域学級の課	

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
5 教育・文化	2 豊かな人生を送るための学習機会の提供	1 生涯学習環境の充実	生涯学習センターや公民館を利用して生涯学習に取り組む若い世代が少ないことから、これらの世代が利用しやすいよう、講座や施設の周知、内容の充実、施設運営などを検討する必要があります。	【作業部会の意見】 ・オンラインを活かす地域づくり(世代別IT講座、電子図書館、Web配信) 【事務局補足】 ・コロナ禍で高齢者等が参加する講座ができないため、オンラインを活用した世代別IT講座等ができればという意見でした。  【事務局】 ・幸せ実感モニターから、講座開催の情報が届かない、知らないという意見が出ている。  【企画課からの提案】 ・委員からは、「コロナをチャンスに」という声もありました。 ・子育て中の母親等も含め、あらゆる世代が利用しやすい講座や施設、サービスの充実に触れることはできるでしょうか。		【②について】 オンライン環境が整っていない方や高齢者向けに初歩的なパソコンやタブレット、スマホ講座などを実施しており、先ず機器の使い方等の習得を広めている。  講座や施設の周知、内容の充実、施設運営などは、工夫が必要と考えているため、特に記載は変えないが、「交流センター」を追加する。	生涯学習センターや公民館、 <u>交流センター</u> を利用して生涯学習に取り組む若い世代が少ないことから、これらの世代が利用しやすいよう、講座や施設の周知、内容の充実、施設運営などを検討する必要があります。	ライフステージに応じた学びの機会が提供され、多くの市民が学びを実践している。	【作業部会の意見】 ・あらゆる世代の人が自由に学べる環境  【事務局】 ・幸せ実感モニターからは、講座の情報が届かない、高齢者対象のものしかないという意見がある。  ・子育て世代が参加しやすい環境(例えば託児サービスを提供する、オンラインでも受講できる等)があるといい。  【企画課からの提案】 ・あらゆる世代に講座の情報が届く環境、あらゆる世代が講座を受講できる環境について触れることはできるでしょうか。	②作業部会の意見欄の幸せ実感モニターから、「講座開催の情報が届かない、知らないという意見が出ている」が、⑨担当課の考え方は、ツイッター等で周知しているから表記は変えないとなっている。幸せ実感モニターからの、「出してもらってはいるが、伝わらないですよ」という意見だと思う。「施策5-5-1の国際交流活動の推進」の⑩目指す状態には「多くの市民がSNS等を活用した周知を通じて」と敢えて文言で書いている。やりたい方向性はすぐわかるが、幸せ実感モニターのことを考えたら、CMLしている人はわかるけれど、もうちょっと周知を頑張っているという気持ちがあるのではないか。認識の間違いがあってはいけないので、教えてもらいたい。	【⑦について】 乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期に分けたそれぞれの段階のステージでの学びの機会や場の提供についての情報提供は、主に使用されている媒体等があることから、各公民館・交流センター発行の館報をはじめ、地区回覧物(チラシ)、公式ホームページ、ツイッター等で周知していることから、特に記載は変えない。  【⑧について】 目指す状態は、多くの市民が学びを実践している状態であるので、状態には反映させないが、状態に至るまでのプロセスとして学習情報の提供を追加する。	ライフステージに応じた <u>学習情報</u> や学びの機会が提供され、多くの市民が学びを実践している。	家庭・地域学びの課
5 教育・文化	2 豊かな人生を送るための学習機会の提供	2 学習成果を活かした地域づくりへの参加促進	生涯学習が住民主体の地域づくりにつながることから、市立公民館の指定管理者制度の導入を受託可能な住民自治協議会から進めています。公民館活動を更に活発化し、市民が生涯学習を通じて充実感を得られ、地域づくりに活かせるよう支援する必要があります。	【事務局】 ・幸せ実感モニターから、公民館の講座内容が、地域づくりの視点が薄くなってきているという意見があります。 ・住民自治協議会とのさらなる連携が必要。  【企画課からの提案】 ・施策5-1-3と重なる部分もあると思いますが、若者も参加しやすい環境を整える必要もあるかと思えます。		【②について】 「地域の学び」講座を、本市の生涯学習推進の主要事業の一つとして位置付け、「家庭の学び」と「フレイル予防」の3本柱で進めている。  また、指定管理業務のほか、連携事業(講座等)については、住民自治協議会の負担が大きくなっている。  作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。	生涯学習が住民主体の地域づくりにつながることから、市立公民館の指定管理者制度の導入を受託可能な住民自治協議会から進めています。公民館活動を更に活発化し、市民が生涯学習を通じて充実感を得られ、地域づくりに活かせるよう支援する必要があります。	市民が市立公民館などでの学びの成果を、地域づくりに活かしている。	【作業部会の意見】 ・学びの関係人口から様々な分野(しごと、地域文化、スポーツ)への繋がりが ・若者と地域をつなぐ →若者も地域の担い手に ・若者の居場所(NPOとの共同) →長野のイメージアップになる  【事務局】 ・40歳代までの幸せ実感モニターからは、肯定的な意見が出ていない。若い世代は、地域づくりにつながる学びを受ける機会がないと感じています。  【企画課からの提案】 ・若者が地域の活動に参加したくても、年長者の意見が強くなかなか参加しにくいという意見が委員から出ました。若者も地域の担い手になり、地域の活動に貢献できる姿等にも、触れることはできるでしょうか。 ・若い世代も参加しやすい環境の整備、地域づくりにつながる内容を前面に出していくことはできるでしょうか。 ・上記事項が無理であれば、「市民が」→「あらゆる世代が」といった表現はどうか。	【⑦について】 左記の地域づくりにつながる施策は、地域・市民生活部が関連していると思われ、本計画の「政策1市民が主役のまちづくりの推進」に該当するものと考え、この施策の分野に当てはまらないため、反映させない。  人との交流であったり、学びの中で育まれる向上意欲であったり、その交流や意欲が、地域での繋がりがや連携など地域づくりに活かされると考えている。	あらゆる世代の人が公民館や <u>交流センター</u> などで <u>地域を学び</u> 、地域づくりに活かしている。	家庭・地域学びの課	

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
	3	魅力あふれる文化の創造と継承 1 多彩な文化芸術の創造と活動支援	市民の文化芸術活動が盛んで、伝統芸能や野外彫刻が数多くあります。また、文化芸術活動の拠点となる長野市美術館が開館してからは、鑑賞や発表の場が充実し、市民の関心も高まっています。この機運を継続し、より多くの市民が文化芸術に親しめる機会の提供と環境づくりを進める必要があります。	【作業部会の意見】 ・大衆演芸を見たい  【企画課からの提案】 ・5-3-2の「文化の継承による魅力ある地域づくりの推進」と伝統芸能の継承の部分が重複しています。5-3-1では、伝統芸能以外の鑑賞、活動支援について触れることはできませんでしょうか。		【②について】 ・作業部会の意見は現行に含まれているため、反映させない。 ・伝統芸能も文化芸術の1つであるため、分けて記載することは難しいが、標記方法を見直す。	市民の文化芸術活動が盛んで、各地域には伝統芸能が広く伝わっており、平成27年善光寺御開帳プロジェクトや長野市美術館の開館により、市民の関心も高まっています。今後も鑑賞・発表など市民が気軽に文化芸術に親しめる機会の提供を進める必要があります。また、県北部の中核市として、近隣市町村と連携しながら、継続的な発展を進める必要があります。	だれもが気軽に音楽、美術、演劇など文化芸術に親しんでいる。	【作業部会の意見】 ・日常の中の「文化」、「芸術」、「スポーツ」 ・誰でもいつでもどこでも文化活動・スポーツ活動を楽しめる ・もっと気軽に(文化活動に)チャレンジできる  【事務局】 ・子育て世代も参加できる、親子で一緒に気軽に楽しめる活動があってもいい。  【企画課からの提案】 ・あらゆる世代が文化芸術に親しめるという視点を入れることはできませんでしょうか。		【⑦について】 ・表現方法を変更し、反映	子ども、高齢者、障害者など、あらゆる人々が日常から気軽に文化芸術に触れ、常に活発な文化芸術活動が行われている。	文化芸術課
	3	魅力あふれる文化の創造と継承 2 文化の継承による魅力ある地域づくりの推進	指定文化財をはじめとする有形・無形の歴史・文化遺産があり、観光資源や地域住民のよりどころとして保存・継承されています。引き続き、指定文化財などの保存と活用を進めるとともに、適切に継承されるよう担い手の確保などを支援する必要があります。	【作業部会の意見】 ・地域文化(お祭りなど)の保護と発信 ・伝統・古典芸能を残したい  【事務局】 ・幸せ実感モニターから、後継者が不足しているという意見があります。また、引越して来た人たちは参加できないという意見もあります。  【企画課からの提案】 ・伝統文化・芸能の継承者がいないという課題について触れるのはどうでしょうか。 ・子どもや若い世代、新たに住民となった人等も参加しやすい環境を整えるということについて触れることはできませんでしょうか。		【②について】 ・作業部会の意見及び企画課からの提案については、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。	指定文化財をはじめとする有形・無形の歴史・文化遺産があり、観光資源や地域住民のよりどころとして保存・継承されています。引き続き、指定文化財などの保存と活用を進めるとともに、適切に継承されるよう担い手の確保などを支援する必要があります。	指定文化財などが適切に保存・継承・活用され、魅力ある地域づくりにつながっている。	【作業部会の意見】 ・日常の中の「文化」、「芸術」、「スポーツ」  【企画課からの提案】 ・子どもや若い世代、他地区から転入してきた人も参加しやすい環境を整えるという点に触れることはできませんでしょうか。		【⑦について】 ・作業部会の意見及び企画課からの提案については、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載は変えない。	指定文化財などが適切に保存・継承・活用され、魅力ある地域づくりにつながっている。	文化財課(文化芸術課)

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
5 教育・文化	4	スポーツを軸としたまちづくりの推進	1	だれもがスポーツを楽しめる環境づくりの推進	成人のスポーツ実施率は増加しており、全国に比べると高い状態にあります。近年、医療費の抑制や健康寿命延伸の観点から、スポーツや運動による日常的な健康づくりが注目されており、仕事や家事、育児で忙しい世代や高齢者がスポーツを身近に感じ、楽しめる環境を整備する必要があります。	【作業部会の意見】 ・スポーツを楽しむ子どもたちに環境整備を充実させたい ・子どもがスポーツをやりたいと思っても、親が送迎等に関われないと、子どもがスポーツをできなくなる。 ・年齢別(高齢者、中年)のスポーツの場がない。相手がほしい。 ・新型コロナウイルスの影響でスポーツの機会が減っている。  【事務局】 ・幸せ実感モニターから、スポーツ施設へのアクセスが悪い(駐車場に入れない、公共交通機関がない)との意見が出ています。 ・子育て世代(特に母親)は、スポーツをしたくてもできないことがある。  【企画課からの提案】 成人のスポーツ実施率は高いですが、子どもの実施率はどのようのでしょうか。 幼少期からスポーツに親しみ、子どもから高齢者まであらゆる世代、あらゆる状況にある人がスポーツに親しめるという視点はどのようでしょうか。	【②について】 子どもから高齢者まで、各年代の市民が、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、効果的・効率的にスポーツに親しむことができる環境づくりを推進していく。	成人のスポーツ実施率は増加しており、全国に比べると高い状態にあります。近年、医療費の抑制や健康寿命延伸の観点から、スポーツや運動による日常的な健康づくりが注目されています。 <b>また、子どものスポーツ活動の実施については、家庭、地域、学校の連携を中心とした環境から、民間や総合型地域スポーツクラブ、スポーツの競技団体などが中心となる環境整備が求められています。</b> <b>このことから、子どもや、仕事、家事、育児等で忙しい世代、高齢者など各年代やライフスタイルに応じて、スポーツを身近に感じ、楽しめる環境を整備する必要があります。</b>	気軽にスポーツや運動に親しめる環境が整い、市民が自分に合ったスポーツや運動を楽しんでいる。	【作業部会の意見】 ・日常の中の「文化」、「芸術」、「スポーツ」 ・誰でもいつでもどこでも文化活動・スポーツ活動を楽しめる  ・子ども達がクラブ活動を楽しめる。 ・部活より地域のサークルで活動する。  ・コロナ禍でも安心して運動できる環境  【事務局】 ・子育て世代が参加しやすい環境(例えば託児サービスを提供する、オンラインでも受講できる等)があるといい。  【企画課からの提案】 ・あらゆる世代、あらゆる状況にある人が気軽にスポーツに親しめる、生涯スポーツにつながる取り組みを行うという視点を入れることはできるでしょうか。	【⑦について】 ・子どもの世代におけるスポーツ活動の動機づけは、継続したスポーツ活動の「生涯スポーツ」を推進する上で重要と考える。 ・特に中学、高校世代については、スポーツ庁が掲げる方針に沿って、学校の部活を拠点にしたスポーツの普及、推進からスポーツクラブなどの民間や各種競技団体、総合型地域スポーツクラブを拠点とする。 ・子どもを預けたり、子どもと一緒に参加するなどにより、子育て世代がスポーツ活動に参加できる環境を整える必要がある。 ・withコロナの中、高齢者などが安心してスポーツ活動が実践できるよう、安全に配慮することが必要	【⑨について】 安全・安心で気軽にスポーツや運動に親しめる環境が整い、市民が自分に合ったスポーツや運動を楽しんでいる。	スポーツ課
5 教育・文化	4	スポーツを軸としたまちづくりの推進	2	スポーツを通じた交流拡大の推進	大規模スポーツ施設が充実しており、プロスポーツや国際大会・全国大会などの各種競技大会が開かれているものの、市内のスポーツ施設で観戦する市民の割合は約2割となっています。引き続き、国際大会などの誘致・開催や地域密着型プロスポーツチーム*の支援を通じ、「見る」「支える」「交流する」などスポーツとの新たな関わり方や楽しみを広げていく必要があります。	【作業部会の意見】 ・AC長野パルセイロ、信州ブレイブウォリアーズのプロスポーツの市民の観戦が少なく。 ・AC長野パルセイロのウェイ観客数が少ない。 ・パルセイロ応援のための輸送体制が充実していない。  ・オンラインを活かす地域づくりができていない。  【企画課からの提案】 ・子どもの無料券配布や幼・保・小学校等への訪問等、既に市民向けの企画が行われていると思います。 コロナ禍でイベントの実施が難しい中ですが、選手との交流等を通して、プロスポーツチームを身近に感じることができるかと思えます。	【②について】 オリンピック・パラリンピックを開催した本市のポテンシャルを活かし、引き続き国際大会・全国大会などを誘致開催し、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、市内からの交流人口の拡大を促進します。 また、本市をホームタウンとする地域密着型プロスポーツチームを本市の地域資源ととらえ、連携することにより、スポーツによる産業振興及び地域活性化を促進します。	多くの市民が市内のスポーツ施設で観戦し、スポーツを通じた交流人口が拡大している。	【作業部会の意見】 ・AC長野パルセイロ、信州ブレイブウォリアーズのプロスポーツをもっと市民の皆さんに観戦してもらいたい。 ・AC長野パルセイロのJ2昇格でウェイのお客様にも大勢来てもらいたい。 ・パルセイロ応援のための輸送体制の充実  ・スポーツオンライン観戦ができる環境  【企画課からの提案】 ・プロスポーツチームの取組みによると思いますが、オンライン観戦、パブリックビューイング等の開催に触れることはできるでしょうか。	【⑦について】 ・スポーツ交流事業の実施、市の広報での各チームの情報発信、「ホームタウンデー」の開催など、プロスポーツの認知度を高め、多くの市民の観戦につなげる。 ・他市の状況を見ると、J1及びJ2、B1のウェイ観戦者数が多いことから、ウェイツーリズム等、ウェイ観戦者の取り込みを研究する。 ・ホームゲームの輸送は、各チームスポンサーの交通機関事業者と連携して対応する。 ・各チームの試合は全試合がネット中継で視聴できることから、ホームスタジアムやホームアリーナにWi-Fiを整備することで観戦しながら他会場の試合を見ることができ環境を研究する。 ・このほか、オリンピック・パラリンピックを開催した本市のポテンシャルを活かし、引き続き国際大会等を誘致開催するとともに、オリンピック・パラリンピックムーブメントを推進し、スポーツによる交流人口の拡大を促進していく。	多くの市民が市内のスポーツ施設で <b>スポーツを</b> 観戦するとともに、 <b>スポーツを通じた交流人口が拡大し、地域の活性化が進んでいる。</b>	スポーツ課	

第五次長野市総合計画後期基本計画 現況と課題及び目指す状態(教育・文化分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
	5	国際交流・多文化共生の推進	1	国際交流活動の推進	姉妹都市・友好都市などとの交流のほか、市民団体による地域に根ざした国際交流などの活動促進にも取り組んでいます。更に多くの市民が事業の参加や活動に関わり国際交流を底上げできるよう、活動を推進するとともに支援を拡充する必要があります。	<p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸せ実感モニターからは、国際交流の機会がない、減っているとの意見が出ています。</li> <li>・コロナ禍で交流のあり方も変わらざるを得ないという課題があると思います。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会、モニターの意見を取り入れることはできるでしょうか。</li> <li>・コロナ禍で実際に行き来する交流は困難なため活動が中止になるものもあると思いますが、オンライン等を活用し活動は継続していくという点を入れることはできるでしょうか。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、往来による国際交流ができないため、交流活動の一部をオンラインに切り替えて、交流を継続する予定のため、意見を反映させる。</li> </ul>	<p>姉妹都市・友好都市などとの交流のほか、市民団体による地域に根ざした国際交流などの活動促進にも取り組んでいます。更に多くの市民が事業の参加や活動に関わり国際交流を底上げできるよう、活動を推進するとともに支援を拡充する必要があります。<b>また、社会情勢の変化に対応できる新しい形での交流も行う必要があります。</b></p>	<p>多くの市民が国際交流に関心を持ち、国際交流事業に参加し、活動に関わっている。</p> <p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一校一國運動の推進</li> <li>・オリンピックレガシーの誇りを持つ</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸せ実感モニターからは、国際交流イベントを知らない、興味はあるが機会がない等の意見が出ています。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的な周知方法、参加しやすい内容等について触れることはできるでしょうか。</li> <li>・当面はコロナ禍に対応した活動を実施し、状況が落ち着いた際には、実際に行き来したりすることで実体験ができるようにするという点を入れることはできるでしょうか。</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業内容については、具体的な事項であるため、目指す状態には反映させない。周知方法に関しては、追加する。</li> </ul>	<p>多くの市民がSNS等を活用した周知を通じて、国際交流により関心を持ち、国際交流事業に参加し、活動に関わっている。</p>	観光振興課 (インバウンド・国際室)  (学校教育課)
5	教育・文化	5	国際交流・多文化共生の推進	2	多文化共生の推進	外国人住民数は3,000人台を推移しています。今後、国際化が進展する中、文化や価値観の違いを受け入れ、相互理解を深め、外国人が暮らしやすく共生できる環境を整備する必要があります。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の子どもが増えている</li> <li>・Chinese community etc 私達が孤独にさせてしまっているのではないか</li> <li>・一貫した支援体制がない。(国際交流、教育、外国籍の方の暮らし、インバウンド)</li> <li>・言葉の壁の問題</li> <li>・異文化を受け入れる意識が大事</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼少期からの交流や、相互理解を深める機会が必要だと思います。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会では「多様性の尊重」が重要視されました。「多様性を認め合う」、「多様性を受け入れる」といった「多様性」の文言を入れることは可能でしょうか。</li> <li>・言葉の問題等で外国人が日本文化に馴染めないという課題はないのでしょうか。</li> <li>・あらゆる世代の外国人も日本人もお互いに理解し合い、お互いに歩み寄ることが必要だということに触れることはできるでしょうか。</li> </ul>	<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会からの意見は、その旨が現行のものに含まれている。</li> </ul>	<p>外国人住民数は<b>4,000人を超えました</b>。今後、更に国際化が進展する中、<b>多様性や価値観の違いを尊重し、相互理解を深め、外国人が暮らしやすく共生できる多文化共生社会の実現に向けて取組を推進させる必要があります。</b></p>	<p>文化や習慣などが異なる外国人にとっても、暮らしやすい環境が整っている。</p> <p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化をお互いに理解する(言葉だけではなく)</li> <li>・異文化を受け入れる環境がある</li> <li>・デジタル技術(翻訳等)を活用した交流を進める。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性につながる取り組み等に触れることはできるでしょうか。</li> <li>例えば、多様性を認め合う意識の醸成に取り組むといった視点はどうか。</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性を認め合うことは、多文化共生の基盤であると考えられるため、反映させる。</li> </ul>	<p><b>多様性を認め合い、互いを尊重している。また、文化や習慣などが異なる外国人にとっても、暮らしやすい環境が整っている。</b></p>	観光振興課 (インバウンド・国際室)

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(産業・経済分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期基本計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態(前期基本計画)	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
産業・経済	1	豊富な観光資源等を活かした観光交流促進	<p>●市内に豊富な観光資源がある一方で、市内周遊率が低く、平均滞在時間が短い状況にあるため、市内の魅力ある観光資源等を活かした観光コンテンツを構築する必要があります。</p> <p>●市内観光資源の認知度を一層高めていくため、効果的に情報を発信するとともに、本市の有するハブ機能や新幹線などの高速交通を活用し、より広域的な観光を展開する必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然を活かしきれしていない。</li> <li>都市部から近いが、通過してしまう。</li> <li>若者が楽しめる場所がない</li> <li>善光寺、戸隠など歴史・文化・自然などの観光資源がある。</li> <li>コロナ禍で経済が落ち込んでいる。回復が必要</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症拡大による影響</li> <li>ワーケーションの普及</li> <li>先端技術(MaaS等)の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルを活用したプロモーションなどでSNS等と限定しない方がよい。</li> <li>若い世代に向けたプロモーションと新型コロナウイルス感染症に対応するためのプロモーションは分けた方がよい。</li> </ul>	<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見から、若者に対する市内観光資源の認知度を高める必要があるため反映させる。</li> <li>作業部会の意見、企画課からの意見にある新型コロナの感染拡大による影響や経済に落ち込みについては、大きな課題であるため反映させる。</li> <li>企画課からの提案のワーケーションの普及やMaaS等の活用については、具体的な事項であるため、主な取組に反映できるか検討する。</li> </ul> <p>【③について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見を取り入れ修正</li> </ul>	<p>一人あたりの観光消費額が目値を下回っており、観光入込客も減少傾向であるため、魅力的な観光コンテンツの構築やICTを活用した効果的・継続的な情報発信を行うとともに、本市の有するハブ機能を活用した広域的な観光を展開する必要があります。</p>	<p>豊富な観光資源を活かし、観光客でにぎわい観光消費額が増加している。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者、インバウンドで賑わっている。</li> <li>外からの誘客が増加している。</li> <li>おもてなしの心がある。</li> <li>県を代表する交流都市</li> <li>好きな観光地として「長野市」を挙げている人が多くいる</li> <li>ファンが増えている。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナ/ウィズコロナ時代の新たな観光</li> <li>Z世代(1995年から2015年生まれ)に向けた観光</li> <li>SDGsの視点を取り入れた持続可能な観光</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見については現行のものに含まれると考えられる。</li> <li>Z世代に向けた観光及びSDGsの視点を取り入れた持続可能な観光については、主な取組に反映できるか検討する。</li> </ul>	<p>豊富な観光資源を活かし、観光客でにぎわい観光消費額が増加している。</p>	観光振興課	
		2	インバウンドの推進	<p>観光客ニーズが多様化し、アジア圏をはじめとした外国人観光客が増加していることから、誘客を進めるとともに、外国人が快適に滞在できる環境を整える必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で経済が落ち込んでいる。回復が必要</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナ/ウィズコロナ時代の新たな観光</li> </ul>		<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見を反映させる。</li> </ul>	<p>継続的な誘客プロモーションの効果により、市内外国人宿泊者数の増加傾向が継続していましたが、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、外国人観光客の激減が予想されます。今後は、ターゲット国に対する効果的な誘客活動を継続的に行うとともに、外国人観光客にとって安心な旅先として選んでいただけるよう、更なるプロモーションの推進が必要です。</p>	<p>外国人観光客誘客に向けた効果的な情報を発信し、充実した受入環境の下で外国人観光客が快適に滞在している。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>若者、インバウンドで賑わっている。</li> <li>外からの誘客が増加している。</li> <li>おもてなしの心がある。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナ/ウィズコロナ時代の新たな観光</li> <li>SDGsの視点を取り入れた持続可能な観光</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画課から提案のアフターコロナ時代の新たな観光について、具体的な取組を検討し、今後の取組に反映させる。</li> </ul>	<p>外国人観光客の誘客に向けた効果的な情報発信を行うとともに、充実した受入環境の下で外国人観光客が快適に滞在している。</p>	観光振興課
			コンベンションの誘致推進	<p>オリンピック冬季競技大会開催等で収容能力が高い会議・宿泊施設が整備され、スポーツ・文化施設も充実していることに加え、高い知名度を活かし、引き続き多様なコンベンションを誘致する必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍で経済が落ち込んでいる。回復が必要</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナ/ウィズコロナ時代の新たな観光</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の強みとは具体的に何か。これが課題であれば目指す状態を変える必要があるのではないか。</li> <li>距離の近さだけではないので、現況を詳しく書いた上で、より近いエリアとも差別化しないといけないのでそれを踏まえて目指す状態を修正する必要がある。</li> </ul>	<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見、企画課からの意見にある新型コロナの感染拡大による影響や経済に落ち込みについては、大きな課題であるため反映させる。</li> </ul> <p>【③について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作業部会の意見を取り入れ修正</li> </ul>	<p>開催地決定に関するハードルが比較的低い中小コンベンションに的を絞った誘致活動や、デジタルサイネージ等を活用した開催告知などの支援によりコンベンション参加者数は高水準で推移していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により多くの開催が中止となったことで参加者数が減少しています。今後は、主催者や各観光協会等との連携を強化しながら、多様なコンベンションの誘致を図る必要があります。</p>	<p>多様なコンベンションが開催され、参加者でにぎわっている。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外からの誘客が増加している。</li> <li>おもてなしの心がある。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフターコロナ/ウィズコロナ時代のコンベンション誘致</li> <li>MICE企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体・学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイ</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企画課からの提案されているアフターコロナ/ウィズコロナ時代のコンベンション誘致については、具体的な取組を検討し、今後の取組に反映させる。</li> </ul>	<p>多様なコンベンションが開催され、参加者でにぎわっている。</p>	観光振興課

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(産業・経済分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期基本計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態(前期基本計画)	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
6	産業・経済	2	活力ある農林業の振興	多様な担い手づくりと農地の有効利用の推進	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Iターンでの新規就農のフォローが弱い(住む場所、畑、コミュニティ)</li> <li>・開発の機運が高い(農地→宅地化)</li> <li>・使われない農地、未耕作地がある</li> <li>・農地の放棄地が目立つ</li> <li>・耕地が他県に比べて小さい</li> <li>・田園風景が残っている</li> <li>・果樹や米、麦など、何でも栽培できる</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナ/ウィズコロナ時代の新たな観光</li> </ul>		<p>【②について】</p> <p>作業部会の意見及び企画課の提案については、下記取組を行っているため、主な取組に反映するよう検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県などの関係機関と連携し新規就農者の営農上の相談に答えるサポート体制を整えている。</li> <li>・人・農地プランの実質化に取り組んでいる。</li> <li>・農業公社では被災農地の貸借のマッチングを進めている。</li> </ul>	農家が有効に利用され、専業農家のほか多様な担い手が農業に取り組んでいる。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農がしやすい</li> <li>・若者の新規就農者の増加</li> <li>・農業従事者の増加</li> </ul>		<p>【⑦について】</p> <p>⑦作業部会の意見については、下記取組を行っているため、主な取組に反映するよう検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏での新規就農相談会等でPRし、新規就農につなげる。</li> <li>・農業研修センターを活用して、定年帰農者や企業など新たな担い手の育成に取り組む。</li> <li>・各地区の人・農地プランに沿って、中心的な担い手への集約を図り、農地の有効利用に取り組む。</li> </ul>	農地が有効に利用され、専業農家のほか多様な担い手が農業に取り組んでいる。	農業政策課
				地域の特性を活かした生産振興と販売力強化の促進	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・果樹の市場価値向上による栽培数の増加、新規就農者の増加</li> <li>・スマート農業は手段であって目的ではない(所得向上や若手新規就農者の増加が目的)</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年東日本台風災害からの復旧・復興</li> <li>・6次産業化(経営の多角化により、所得向上を目指す)</li> </ul>	<p>【②について】</p> <p>作業部会の意見及び企画課の提案については、下記取組を行っているため、主な取組に反映するよう検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和元年東日本台風災害からの復旧については、国の交付金を活用し農業用機械や施設(農機具格納庫等)の修繕・再取得を支援している。</li> <li>・スマート農業については、長期戦略2040の農業分野のプロジェクトの中で事業化を検討している。</li> </ul>	りんご、もも、ぶどうなどの高品質で安全・安心なおいしい農産物が生産され、高い評価を得ている。	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物のブランド化</li> <li>・農業所得の増加</li> <li>・地消地産、地域自給</li> <li>・田園風景、農村環境の保全</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <p>⑦作業部会の意見については、下記取組を行っているため、主な取組に反映するよう検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物のブランド化や農業所得の増加を目指して、スマート農業の実証事業を検討している。</li> <li>・有機JAS認証取得の補助制度を設けている。</li> </ul>	りんご、もも、ぶどうなどの高品質で安全・安心なおいしい農産物が生産され、高い評価を得ている。	農業政策課		
			森林の保全と資源の活用促進	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな自然を活用できていない。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境贈与税の活用</li> <li>・バイオマス利用の推進</li> <li>・林業の担い手の確保、育成</li> <li>・森林教育の充実</li> <li>・先端技術を活用したスマート林業</li> </ul>	<p>【②について】</p> <p>作業部会・企画課からの意見を反映させる。</p>	<p>小規模分散所有や木材価格の低迷、森林所有者の高齢化、若者の都市部への流出等により森林整備への意欲が低下するとともに、境界不明や未相続による所有者不明地が多く、これらが支障となり森林整備は捗っていない状況です。</p> <p>今後は、新たな森林管理システムである森林経営管理制度を活用して、木材の生産や水源涵養・防災減災等森林の持つ公益的機能の充実を図るほか、林業の担い手の確保・育成や次世代を担う若者への森林教育による意識付け、バイオマス等森林資源の有効活用を図っていく必要があります。</p>	森林が守り育てられ、森林資源が有効に活用されている。	<p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境贈与税の活用</li> </ul>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林環境贈与税の活用については、「主な取組」に反映できるか検討する。</li> </ul>	森林が守り育てられ、森林資源が有効に活用されている。	森林農地整備課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(産業・経済分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期基本計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態(前期基本計画)	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課			
産業・経済	6	3	特色を活かした商工業の振興	1	商工業の強化と環境整備の促進	商業立地の郊外化とともに、インターネットによる買い物など消費行動と流通構造の変化により、商業を巡る社会構造が変化しています。また、製造品出荷額等が平成23年以降微増しているものの、事業所数が減少傾向にあります。これらの変化に対応し地域活力の源となる地域の商工業が持続・成長するため、経営力・販売力を強化する必要があります。	【作業部会の意見】 ・若者(学生)が大人と連携する仕組みづくり(モノづくりなど) ・中心市街地やその周辺に高校や大学が立地 ・市内で学んだ学生が流出してしまう	【企画課からの提案】 ・SDGs視点による社会・環境に配慮した持続可能な経済成長	【②について】 ・作業部会の「若者との連携」「高校・大学の立地」については、6-4-1「就労の促進と多様な働き方の支援」で対応 ・企画課のSDGs視点を反映	商業・工業とも事業所数は減少していますが、販売額や出荷額は増加傾向にあります。一方、令和元年東日本台風災害や新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、本市経済に大きな影響を与えています。また、インターネットによる買物の拡大やライフスタイルの多様化に伴い、消費者ニーズが変化しています。このような経済環境や社会環境の変化に対応し、地域活力の源となる地域の商工業の持続可能な成長のため、商工団体や大学等高等教育機関などの関係機関との連携を強化し、経営力・販売力・技術力の向上を図る必要があります。	足腰の強い工業生産や商業活動が展開され、地域外からの利益が取り込まれている。	【作業部会の意見】 ・県外からお金が戻ってくる(県外で稼ぐ) ・信大、高専、県立大学生の地元就職 ・長野の中で買い物物が完結する。	【企画課からの提案】 ・SDGs視点による社会・環境に配慮した持続可能な経済成長	【⑦について】 ・作業部会の「県外で稼ぐ」はその旨が現行のものに含まれているため、変更不要と考える。 ・作業部会の「地元就職」については、6-4-1「就労の促進と多様な働き方の支援」で対応 ・作業部会の「長野の中で買い物物が完結する」は6-3-2「地域の特性が光る商工業の推進」で対応 ・企画課のSDGs視点は目指す状態に反映	持続可能で足腰の強い工業生産や商業活動が展開され、地域外からの利益が取り込まれている。	商工労働課
			2	地域の特性が光る商工業の促進	地域の商工業の競争力の強化には、関係機関等との様々な連携により、地域の魅力や特性を活かすことが不可欠です。消費者のニーズに対応できる魅力的で利便性の高い地域商業へ転換する必要があります。また、人材育成を図るほか、販路拡大・付加価値の高いものづくりや先端技術に対応する必要があります。	【作業部会の意見】 ・中心市街地やその周辺に高校や大学が立地 ・あらゆる分野の産業が集積している。 ・自然豊かでIT関係の若者が集う。 ・一定規模の産業が集積している。	【企画課からの提案】 ・SDGs視点による社会・環境に配慮した持続可能な経済成長	【②について】 ・作業部会の「高校・大学の立地」は6-3-1「商工業の強化と環境整備の促進」で対応 ・作業部会の「あらゆる分野の産業が集積している」「自然豊かでIT関係の若者が集う」「一定規模の産業集積」を反映 ・企画課のSDGsの視点は現況と課題に反映	本市は、県内最大の商圏人口を有するとともに、幅広い産業がバランスよく集積しています。特に、情報通信業については、従業者数が中核市平均の約2倍となっていることから本市を特徴づける産業となっています。また、首都圏への近接性が高いことに加え、豊富な自然環境に恵まれていることから、各地域における特色を活かし、生産性や付加価値の向上を図ることで、地域の特性に応じた商工業の形成を推進する必要があります。	中心市街地、中山間地域などの地域ごとにある様々な特性を活かし、商工業に活気があり、まちがにぎわうとともに、新製品・新技術が開発され、企業活動が活性化している。	【作業部会の意見】 ・ICT産業の集積増	【企画課からの提案】 ・SDGs視点による社会・環境に配慮した持続可能な経済成長	【⑦について】 ・作業部会の「ICT産業の集積増」は、6-3-3「新たな活力につながる産業の創造」で対応 ・企画課のSDGsは、その旨が現行のものに含まれているため、変更不要と考える。	中心市街地、中山間地域などの地域ごとにある様々な特性を活かし、商工業に活気があり、まちがにぎわうとともに、本市の特長を生かした新製品・新技術が開発され、企業活動が活性化している。	商工労働課	
			3	新たな活力につながる産業の創出	地域の商工業の更なる活性化には、新たな力が必要です。産学官金の連携により、企業の誘致や起業・創業を促進するとともに、イノベーションを創出し、これらを核とした産業の集積につなげていく必要があります。	【作業部会の意見】 ・中心市街地やその周辺に高校や大学が立地 ・あらゆる分野の産業が集積している。 ・自然豊かでIT関係の若者が集う。 ・企業ごと個々で取り組みを行っている。 ・若者(学生)が大人と連携する仕組みづくり(モノづくりなど)	わかりやく具体的にどこを強みとしているのかを明記しておかないと、なぜ「オープンイノベーション」や企業誘致、起業家育成が必要か具体的に検討した方が良い。	【②について】 作業部会の各意見については、現況と課題に反映 【③について】 作業部会の意見を取り入れ修正	消費者ニーズの変化や人口減少による市場の縮小が続く中、持続可能な経済成長のためには新たな力が必要です。産学官金の連携によるオープンイノベーションの推進や、起業家育成、企業誘致等により、新たな産業の創出につなげていく必要があります。	起業・創業、企業の誘致により新たな雇用が生まれている。	【作業部会の意見】 ・新しいことや困ったことをサポートできる体制整備 ・起業しやすい ・学生の起業支援	【企画課からの提案】 ・長期戦略2040ビジョン「自然の循環と経済の発展を両立させる、長野らしい、世界に誇る「産業」創造」の視点	【⑦について】 ・作業部会の「サポート体制」は、具体的な事項であるため、目指す状態ではなく、主な取組に反映できるか検討する。 ・作業部会の「起業しやすい」「学生の起業支援」、企画課からの提案は、目指す状態に反映	自然の循環と経済の発展を両立させる、長野らしい産業の創造に向けた、オープンイノベーションや起業・創業などの動きが始まっている。	商工労働課	

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(産業・経済分野)

分野	政策	施策	①現況と課題(前期基本計画)	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態(前期基本計画)	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
産業・経済	4	安定した就労の促進	<p>●専門・技術などの職種に関しては常に人手不足の状態であることから、これらの人材育成を促進し、雇用とのマッチングにつなげる必要があります。</p> <p>●市内の高校生・高等専門学校生等の約6割が市外での就職を希望していることから、市内での就職に向けて事業所の特長や求人情報を周知する必要があります。</p> <p>●高齢者や子育て世代などのニーズに応じた多様な就労形態が求められており、ハローワークなどの関係機関と連携し、様々な人が就労できる環境づくりを進める必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者が働きたい場が確保されているか</li> <li>・若者にとって働く場所がない。</li> <li>・就業の場での女性が十分に登用されているか</li> <li>・高等教育、専門教育が生かせる企業が少なく(シンクタンク、研究機関、音楽、アミューズメント etc)</li> <li>・就労の選択肢が少ない。</li> <li>・東京からの距離が近い。</li> <li>・自然環境が豊か</li> <li>・テレワークに対応できる通信環境が整っている。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による影響</li> <li>・テレワーク、ワーケーションの普及</li> </ul>		<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会の意見のうち「働く場所がない、就労の選択肢が少ない」などについては、周知が不足していることが課題であると認識し、その旨を課題に含めている。「女性の登用やテレワーク」などについては、ワークライフバランス向上のための課題であると認識し、その旨課題に含めている。「東京からの距離の近さ、豊かな自然環境」など暮らしの魅力については、市内での就労のきっかけになるものであることから、意見を反映する。</li> </ul> <p>・企画課からの提案は、具体的な事項が含まれているため、現況と課題ではなく、主な取組に反映できるか検討する。</p>	<p>●専門・技術的職業などの職種に関しては人手不足の状態であることから、これらの人材育成を促進し、雇用とのマッチングにつなげる必要があります。</p> <p>●市内の高校生・高等専門学校生等の約6割が市外での就職を希望していることから、市内での就職に向けて事業所の特長や求人情報を周知する必要があります。</p> <p>●市外の大学等に進学した学生のうちUターン就職者は約4割にとどまっていることから、市内企業等との出会いの場の創出や、暮らし方の魅力も含めて市内企業等への就職に向けた情報発信をする必要があります。</p> <p>●高齢者や子育て世代などのニーズに応じた多様な就労形態が求められており、ハローワークなどの関係機関と連携し、様々な人が就労できる環境づくりを進める必要があります。</p>	<p>企業の特徴や求人に関する情報が容易に入手でき、就労が促進されている。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人事部づくり(人材獲得・交流育成)</li> <li>・就労に困らないまち</li> <li>・若者が出ていかなくともすむまち</li> <li>・他県から就労に来る若者が多いまち</li> <li>・長野に住んで、東京で仕事をする人が増える。</li> <li>・市外に出た学生の大半が長野に帰ってきて就職する。</li> <li>・副業・兼業がしやすい環境</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク、ワーケーション等の多様な働き方の推進</li> </ul>		<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会の意見のうち「就労に関すること」は、その旨が現行のものに含まれているため、変更不要と考える。「多様な働き方」に関するものは、意見を反映する。</li> </ul> <p>・企画課からの提案は、具体的な事項であるため、主な取組に反映できるか検討する。</p>	<p>企業の特徴や求人に関する情報が容易に入手でき、働き方改革が推進されるなど多様な働き方が可能になることで、就労が促進されるとともに、様々な人が就労しやすい環境が整備されている。</p>	商工労働課
		2	勤労者福祉の推進	<p>企業等の福利厚生事業が減少・廃止されるなど勤労者の労働環境は厳しい状況であるため、福利厚生施設や人材育成・研修機関を持たない中小企業等で働く勤労者が、いきいきと働くことができる環境を整える必要があります。</p>	<p>【作業部会の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然環境が豊か</li> <li>・テレワークに対応できる通信環境が整っている。</li> </ul> <p>【企画課からの提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大による影響</li> <li>・テレワーク、ワーケーションの普及</li> </ul>		<p>【②について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会の意見のうち「自然環境が豊か」については、現況というよりも活用できる資源についても触れたものであり、「テレワークに対応できる通信環境が整っている」については、就労環境の整備も含めると業種や業務により差が大きいことは課題であるが、多様な働き方の支援(6-4-1で対応)に関するものであることから、本項目に関する変更は不要と考える。</li> </ul> <p>・企画課からの提案は、具体的な事項が含まれているため、現況と課題ではなく、主な取組に反映できるか検討する。</p>	<p>企業等の福利厚生事業が減少・廃止されるなど勤労者の労働環境は厳しい状況であるため、福利厚生施設や人材育成・研修機関を持たない中小企業等で働く勤労者が、いきいきと働くことができる環境を整える必要があります。</p>	<p>中小企業の福利厚生や研修の機会が確保され、勤労者がいきいきと働いている。</p>	<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいことや困ったことをサポートできる体制整備</li> <li>・地域の人事部づくり(人材獲得・交流育成)</li> </ul>		<p>【⑦について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作業部会の意見は、具体的な事項であるため、主な取組に反映できるか検討する。</li> </ul>	<p>中小企業の福利厚生や研修の機会が確保され、勤労者がいきいきと働いている。</p>

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(都市整備分野)

分野	政策	施策	①現況と課題	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
7 都市整備	いきいきと暮らせる魅力あるまちづくりの推進	1 地域の特性に応じた都市機能の充実	都市部では、市街地の拡散と人口密度の低下により、市民生活へのサービス提供に課題が生じているため、公共交通の利便性の高い地域などに都市機能を集約し、市民生活の質の維持・向上に取り組む必要があります。	【作業部会の意見】 ・芸術館等の施設はできたが、活かされてはいないのではないか ・まちなかに公園が増えている ・善光寺周辺区域の趣のあるまち並みの整備が進んでいる	・中心地の空洞化が解消できていない。高齢化社会となり、逆に都市部に人が集まってくるのがトレンドになっているが、かつて郊外へ施設等を集中させたおかげで、暮らしにくくなっている。都市政策についての考えを聞きたい。	【②について】 ・既存施設の周知は本施策でなく、別分野の施策で検討するのが適当と思われる ・公園整備は質の向上に含まれる具体的事項であるため、記載の変更の必要はないと考える。 ・趣のあるまち並みは、本施策ではなく、「4 地域の特色を活かした景観の形成」で検討すべきと考える。	都市部では、市街地の拡散と人口密度の低下により、市民生活へのサービス提供に課題が生じているため、公共交通の利便性の高い地域などに都市機能を集約し、 <b>まちづくりにおける総合的な災害対策と連携しながら</b> 、市民生活の質の維持・向上に取り組む必要があります。	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域に都市機能が集約されている。	【作業部会の意見】 ・景観、街路樹の美しいまち ・自宅と職場の往復だけでなく、サードプレイス(地域、公園、店)となる場所がある ・まちなかの通信環境が充実している(Wi-Fi、5G) ・居住地を集約していく必要がある  【企画課からの提案】 ・スマートシティ推進 ・Society5.0 ・先端技術を活用したモビリティ(MaaS、グリーンズローモビリティ、自動運転)	【⑦について】 ・景観については、「施策4 地域の特色を活かした景観の形成」で検討すべきと考える。 ・施設や通信環境等は質の向上に含まれる具体的な事項のため、総合して反映させる。 ・Society5.0、居住地の集約について意見を反映させる。 ・交通については、「政策2 拠点をつなぐネットワークの充実」の施策で検討すべきと考える。	中心市街地や鉄道駅周辺など都市拠点となるべき地域における <b>人口密度が維持され、市民生活へのサービスの提供可能な都市機能が集約し、居心地の良い空間が形成</b> されている。	都市政策課	
		2 暮らしを支える生活機能の維持	●生活道路、上下水道や情報通信網などの生活を支える都市基盤は、将来的に維持費の増大が見込まれることから、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入などにより、財政負担の軽減を図りつつ、計画的に改修・更新する必要があります。  ●過疎化が進行する中山間地域では、日常の生活機能を維持する公共施設の複合化・多様化などの取組が必要となります。	【作業部会の意見】 ・中山間地のインフラの維持(道路・防災) ・中山間地のインフラの維持するためにはコストがかかる	・中山間地域を多く抱える長野市として、小さな拠点という考え方が大事である。	【②について】 ・中山間地は急峻な地形が多いことから、豪雨や地震によって道路等のインフラが被災しやすい状況にあるため、防災面でコストがかかる。  【③について】 ・前期基本計画においては、本施策の主な取組の中に記載されている内容である。	●生活道路、上下水道や情報通信網などの生活を支える都市基盤は、将来的に維持費の増大が見込まれることから、計画的なメンテナンスの実施や新技術の導入などにより、財政負担の軽減を図りつつ、計画的に改修・更新する必要があります。  ●過疎化が進行する中山間地域では、日常の生活機能を維持する公共施設の複合化・多様化などの取組と併せて <b>道路防災によるインフラの強靱化</b> が必要となります。	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。	【作業部会の意見】 ・居住地を集約していく必要がある  【企画課からの提案】 ・過疎地域などのインフラの維持などの課題を解決するツールとして、先端技術を活用している	【⑦について】 ・作業部会の意見は現行のものを評価したものとされており、記載の変更は必要ないと考える。 ・企画課の提案は、目指す状態を実現するための手段について言及したものであり、主な取組の中に取り入れることが可能か検討する。	市民の暮らしを支える都市基盤や日常生活に必要な機能が維持されている。	道路課	
		3 多世代のだれもが暮らしやすいまちづくりの推進	居住地域では、暮らしやすいまちづくりを引き続き推進するため、 <b>増加する空き家への対応や、だれもが安心して移動できるユニバーサルデザインを取り入れた歩道の整備、公共建築物などのバリアフリー化を進める</b> 必要があります。	【作業部会の意見】 ・門前の空き家の活用、リノベーションが行われている ・住宅団地が一斉に高齢化している ・空き家が増加している ・都会にはない静けさがある	・中山間地域を多く抱える長野市として、小さな拠点という考え方が大事である。	【②について】 ・作業部会の意見を反映させる。 ・施策の対象が幅広くあるため、現状と課題を施策の対象別に再整理する必要がある。  【③について】 ・前期基本計画においては、「施策2 暮らしを支える生活機能の維持」の主な取組の中に、含まれる内容である。	● <b>居住地域では</b> 、暮らしやすいまちづくりを引き続き推進するため、 <b>増加する空き家への対応や、だれもが安心して移動できるユニバーサルデザインを取り入れた歩道の整備、公共建築物などのバリアフリー化を進める</b> 必要があります。  ● <b>良質な安全な住宅ストックを形成し、だれもが安心して暮らせる住まいを安定的に確保するとともに、地域の魅力を活かした住環境づくりを進める</b> 必要があります。  ● <b>既存住宅の利活用を促進するとともに、管理不全の空き家の増加を抑制</b> する必要があります。	だれもが気軽にまちなかを移動でき、暮らしやすい住環境が整っている。	【作業部会の意見】 ・田舎暮らしができる、楽しめる環境が整っている(中山間地) ・十分な広さが確保されている歩道がある ・多様な用途で使用でき、きれいに整備された公園が多くある  【企画課からの提案】 ・スマートシティ推進 ・Society5.0	【⑦について】 ・作業部会の「田舎暮らしができる、楽しめる環境が整っている」と「多様な用途で使用でき、きれいに整備された公園がある」の意見は、「地域の魅力を活かした住環境」の例として、目指す状態に反映する。 ・作業部会の「十分な広さが確保されている歩道がある」は、「移動しやすい空間」の例として、目指す状態「だれもが気軽にまちなかを移動でき」に含まれていると考える。 ・企画課からの提案は、目指す状態を実現化するための手段のひとつであり、都市が備える機能(サービス)と捉え、「施策1 地域の特性に応じた都市機能の充実」に含まれるものとする。	だれもが気軽にまちなかを移動でき、 <b>地域の魅力を活かした</b> 暮らしやすい住環境が整っている。	建築指導課	
		4 地域の特色を活かした景観の形成	住民や関係団体などと協働し、本市の魅力である自然と調和した景観や歴史的・文化的な景観を形成するとともに、これまで継承してきた文化財を活用した特色あるまちづくりを更に推進する必要があります。	【作業部会の意見】 ・都会にはない静けさがある ・善光寺周辺区域の趣のあるまち並みの整備が進んでいる  【企画課からの提案】 ・歴史的・文化的な景観の次世代への継承	【②について】 ・作業部会の意見は現行のものを評価したものとされており、記載の変更の必要はないと考える。 ・企画課からの提案内容は、その旨が現行のものに含まれているため、特に記載の変更は必要はないと考える。	住民や関係団体などと協働し、本市の魅力である自然と調和した景観や歴史的・文化的な景観を形成するとともに、これまで継承してきた文化財を活用した特色あるまちづくりを更に推進する必要があります。	【⑦について】 ・作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。 ・企画課からの提案内容は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。	【⑦について】 ・作業部会の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。 ・企画課からの提案内容は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。	豊かな自然環境と調和した景観や、地域固有の歴史・文化が感じられる景観が形成されている。	都市政策課		

第五次長野市総合計画 現況と課題及び目指す状態(都市整備分野)

分野	政策	施策	①現況と課題	②第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	③第3回作業部会の意見	④「②・③」に対する担当課の考え方(意見)	⑤「④」を踏まえた現況と課題	⑥目指す状態	⑦第1・2回作業部会の意見・企画課からの提案	⑧第3回作業部会の意見	⑨「⑦・⑧」に対する担当課の考え方(意見)	⑩「⑨」を踏まえた目指す状態	担当課
7 都市整備	2 拠点をつなぐネットワークの充実	1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築	公共交通網の人口カバー率は約85%ですが、モータリゼーションの進展により、生活路線バスの利用者は長期的には減少傾向であることから、自動車を運転できない学生や高齢者などの移動手段としての公共交通を維持していくための取組や利用促進が必要です。また、本市の家庭におけるCO2排出量に占める自動車の割合が高いことから、自家用乗用車に過度に頼らない交通へ転換する必要があります。	【作業部会の意見】 ・長野駅にはハブ駅としての役割がある ・ハブ機能を十分に発揮できていない ・中山間地域の公共交通がギリギリの状態 ・バス・電車の料金が高い ・他地域から来た人がICカードでの支払いができない ・新幹線があり、都心からのアクセスが良い ・複数の公共交通機関がある ・子たちが親(高齢者)の移動を支えている  【企画課からの提案】 ・コロナ禍の影響により、キャッシュレス決済の普及が加速	・シームレスな公共交通の実現のためには、キャッシュレス決済、MaaSや自動運転といった新たな技術や考え方を取り入れていく必要があると思うが、どのように施策に反映していく考えか。 ・「施策1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築」では「路線バス」、「施策2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備」では「生活路線バス」と表記されているが、統一した方がよいのではないか。	【②について】 作業部会等の一部(「中山間地域の公共交通がギリギリの状態」)意見を反映させる。  【③について】 ・いずれも、これから変化していくことが予想されるものであるため、総合計画の中で具体的に表現をすることは難しいと考えている。 ・「生活路線バス」で統一する。	公共交通網の人口カバー率は約85%ですが、モータリゼーションの進展などにより、生活路線バスの利用者は長期的には減少傾向にあることから、地域の特性・実情や移動需要に応じた公共交通網の整備を行うとともに、利便性向上のための環境整備や利用促進により、地域公共交通を維持・確保することが必要です。また、本市の家庭におけるCO2排出量に占める自動車の割合が高いことから、自家用乗用車に過度に頼らない交通へ転換する必要があります。	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。  【作業部会の意見】 ・様々な移動手段を選択できる環境 ・公共交通が充実していても、いろいろなところに行け、楽しめる ・市街地に大きな公園と隣接した公共交通がある ・交通系カードの利便性向上(共通化) ・キャッシュレスでバスに乗り込める  【企画課からの提案】 ・コロナ禍の影響により、キャッシュレス決済の普及が加速 ・温室効果ガス、2050年までに排出ゼロ(2050年カーボンニュートラル) ・先端技術を活用したモビリティ(MaaS、グリーンローモビリティ、自動運転)		【⑦について】 作業部会等の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。	だれもが利用しやすい公共交通が構築され、多くの人々が利用している。	交通政策課	
		2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備	自家用乗用車に過度に頼らない交通への転換に向け、公共交通の利便性を向上させる必要があることから、生活路線バスなどの走行円滑化を実現するため、幹線道路の整備や交通結節機能の向上に取り組む必要があります。また、都市部における自転車道などを整備する必要があります。	【作業部会の意見】 ・自転車あまり使われていない  【企画課からの提案】 ・コロナ禍の影響により、自転車道などを整備する必要があります。	・「施策1 地域のまちづくりと一体となった公共交通の構築」では「路線バス」、「施策2 拠点をつなぐ交通ネットワークの整備」では「生活路線バス」と表記されているが、統一した方がよいのではないか。	【②について】 作業部会等(「自転車あまり使われていない」)意見を反映させる。  【③について】 ・「生活路線バス」で統一する。	自家用乗用車に過度に頼らない交通への転換に向け、公共交通の利便性を向上させる必要があることから、生活路線バスなどの走行円滑化を実現するため、幹線道路の整備や交通結節機能の向上に取り組む必要があります。また、自転車の利用促進を図るため、自転車道などを整備する必要があります。	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。  【作業部会の意見】 ・自転車の走りやすい道が整備されている ・自転りに優しいまち ・ラッシュ時の渋滞が緩和されている ・バス路線の整備(増便、広いバスレーン)  【企画課からの提案】 ・温室効果ガス、2050年までに排出ゼロ(2050年カーボンニュートラル)		【⑦について】 作業部会等の意見は、その旨が現行のものに含まれているため、記載を変更する必要はないと考える。	自家用乗用車に過度に頼らず、中心市街地、観光地などの拠点や生活機能の拠点を移動できる交通ネットワークが形成されている。	交通政策課	